

2024 March

東京都市大学 校友会
TOKYO CITY UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

都市

vol.11



「セレンディピティ」で新たな発見を!! それは 卒業生同士交流の和から

東京都市大学校友会 会長
松村 慶一
(1974機械)



2023年の校友会発足10周年記念として、さまざまな記念事業を開催し、多くの皆さまに参加いただきました。代表的な記念事業として「森山良子ディナーショー」(於9月9日 セルリアンタワー渋谷東急ホテル)では大学関係者の列席を賜り、参加者総数400名余の参加をいただき盛大に開催できたこと、さらには全国の地方支部、クラブ同窓会の皆さまの熱い思いで、さまざまな記念企画事業を主催し開催いただきましたことで、交流の輪を一層大きく広げることができたものと考えています。これら記念事業の参加者総数は年間を通じて数千名におよびました。まさに10周年の記念事業を通してのメインテーマ「つながりをつなぐ」を体現できました。皆様の卒業生同志のつながりはますます厚くなったものと確信しています。

そして、来る2029年には「東京都市大学発足100周年」(1929年に武蔵高等工科学校として発足)を迎えます。次の時代への出発の準備の時がきました。その新たな門出のために皆様とともにこれからを共有し、飛躍への道を進めたいと思います。

これからの皆様が歩む社会の環境、技術の変遷は、これまでにないスピードで変化しています。そして多様化しているように思います。その中でみなさまの自身の変革が求められます。その飛躍への道を進めるための新たな「学び」、「発想」、「行動」を求めたいと思います。

校友会では、10周年記念事業を通じて、卒業生の皆様の知育を育む交流の場を提供していく取組をスタートさせました。自己のスキルを考える、趣味の醸成を図るためのヒントを提供する、そして知育を育む交流の場として

「～人生100年時代～生涯キャリアサポートプログラム」を発足させました。「学び直し(リスキリング)」で教養、趣味、社会活動の醸成を狙うことで、皆様の生涯のスキルを磨き上げるきっかけを提供しています。

卒業生の個々に保有する知的財産を一層の高みに、そして個々の保有する知的財産を相互に共有する「知の共有」で皆様の社会への貢献、技術革新への貢献が果たせるものと確信しています。

そしてさらには、卒業生皆様の「知の共有」と共にあらたな意識が求められます。

「セレンディピティ」で新たな「学び」、「発想」、「行動」を!!

「セレンディピティ」とは、科学者や研究者が予想もしていなかった現象に苦悩しているとき、ひらめきによって新たな発明発見が見出されることを指します。発見までいたる観察、知識などが「セレンディピティ」と言われています。万有引力の発見、半導体の発見、カッターの発明などが「セレンディピティによる発見」といわれています。すなわち、「思いもかけぬ偶然がもたらす力」です。そこには、

培った技術、教養が基盤となって得られる「気づき」の大切さです。

成果や幸運は、様々な生活の場面、仕事の場面で自らの行動、試行錯誤の繰り返しから偶然起きる可能性が生まれます。それは、皆様の日々の生活、仕事のそれぞれの取組で、その課題解決を察知する準備が大切です。そして、セレンディピティはふとしたきっかけで起きるといわれています。

そのための常日頃からの知識の追求、経験の醸成、そして胆力(勇敢に挑戦する精神力)が求められます。その気かけの一つは「人との交わり」ではないでしょうか。様々な考え方、価値観を持つ多くの人と会話することで、そしてその機会を積極的に作ることで、思いもよぬ発見があるかもしれません。皆様の人生の豊かさを育むことになるかもしれません。その交わり(交流)の一つとして、「卒業生同志の交流」が新たな発見を導くものと思います。

こちらからも、卒業生同志の交流は、皆様の生活の場を豊かにするばかりでなく、来るべき社会の貢献に、技術革新の一翼として無くてはならないことと確認しています。



2023.11 ホームカミングデー

「ご挨拶」

東京都市大学 学長
東京都市大学 校友会 顧問
野城 智也



三木千壽先生の後任として1月1日に学長に就任いたしました。

私は、1991年4月～1998年3月まで、武蔵工業大学建築学科に助教授として勤務いたしました。その時代に、大学からいただいた様々な機会や、学生諸君と協働した研究は、その後の私の活動の源泉でもあり基盤でもあります。それだけに、学長の職務を通じて東京都市大学の持続可能性を高めることで、いただいたご恩に対する恩返しをしていきたいと考えております。

具体的には、以下の二つのことに、一層取り組んでいく所存です。

その一つは、継続的な能力構築への取組であり、もう一つは、都市を舞台としたイノベーションへの取組です。

まず、継続的な能力構築への取組について。

東京都市大学の卒業生の皆様は長い時間の中で社会・企業における声望・信頼を築き上げてきました。その声望・信頼が、新規卒業生の就職機会を高め、そうして就業した卒業生がそれぞれ業績を挙げてますます声望・信頼を高め、さらに新規卒業生の途を拓いていくという、正のスパイラル・プロセスが力強く継続・循環してきました。これは、校友会の皆様のご努力の結晶・精華であり、あらためて御礼申し上げます。私は、この良き伝統が、さらに継続・発展するように、学長として教育の質の保証に注力して参りたいと考えています。

しかし、一方で、こうした良き伝統に胡座をかいてはられないとも認識しています。というのは、いま世界規模で、Game change ともいうべき大きな変化が起きていて、技術が陳腐化していく速度も速まっています。さらには、日本企業がかつて有していた、組織内

での能力の再構築の機会は縮小しているように見られます。となれば、本学の卒業生はこれから、生涯にわたって、自らの能力を構築していく必要性があると考えられます。そこで、学部・大学院の教育においては、単にその時点で求められる専門技術・知識・能力を磨くだけでなく、「生涯にわたって、自ら学び、自ら考え、課題を定義し、自ら何かを生み出していく」能力を高めることも涵養して参りたいと思います。

それとともに、東京都市大学が生涯にわたる能力構築のパートナーとなっていけるよう、社会人を対象とした、いわゆるリカレント教育・リスキリング教育などの能力再構築の機会を提供したいと考えています。五島育英会事務局の世田谷キャンパスへの移転に伴い、法人本部のあった渋谷の空間を再整備し、「渋谷キャンパス」と位置づけ、こうした社会人を対象としたプログラムを展開して参ります。

校友会の皆様には、いまどのように切実な能力再構築のニーズがあるのか是非ご教示いただきたく、謹んでお願い申し上げます。また、もし、皆様のニーズに即したプログラムが立ち上がった暁には、校友会の皆様が、個人単位で、あるいは組織・グループとしてご利用いただければ誠に幸いです。

次に、都市を舞台としたイノベーションについて。

日本では、イノベーションといえば、新たな科学技術が生み出され、その結果、新しい製品・システムが生み出され、世の中が塗り変えられていくという技術主導型のイノベーションに多くの焦点が当てられてきました。しかし、例えば、スマートフォンが興したイノベーションは、よくよく振り返れば、スマートフォンを携帯電話ではなく様々なサー

ビスの端末として再定義したこと、いわば、技術の革新ではなく、「新たな意味の創造」がなされ、それが新たな技術やシステムの創造を牽引したというプロセスを辿っています。そのプロセスには多くの人が巻き込まれるように関与しています。このように、現代イノベーションのもう一つの奔流は、様々な専門家や関係者があたかも神輿を担ぐように参画し、試みに作り、試みに使い、評価し、改良するという繰り返しのプロセスを辿っており、そのため多くの専門家や関係者が地理的に集積する都市を舞台に起こっています。

東京都市大学は、立地からいっても、その名称からいっても、さらに構成員の多様性からいっても、都市を舞台としたイノベーションで存在感を發揮していける絶好の条件を備えています。私は、学長として、学生諸君の起業家精神を惹起していくこと、教員間の分野を超えた協働の機会を高めていくこと、そして、何よりも、革新が求められる課題を同定し、一緒に作り、使い、考え、何かを作り上げていく様々なパートナーとの連携を展開していくことによって東京都市大学が、都市を舞台としたイノベーションの回し手になっていくように尽力していきたいと考えております。

校友会の皆様には、是非、この皆で神輿を担ぐイノベーションに様々な形で参画ご支援をいただきたく、そのきっかけをどのように作り、ことを運んでいければよいか相談申し上げたいと考えています。

就任早々、お願い事ばかりで恐縮ですが、東京都市大学の持続可能性を高めることに本意がありますので、その点をご理解いただきご支援ご指導を賜れば誠に幸いです。

世田谷キャンパス

校友連携課課長 菊地 辰矢（2005機械）

2023年11月4日（土）15:00より9号館1階学生食堂にて「東京都市大学 ホームカミングデー」が開催されました。本イベントは、例年、世田谷キャンパス学園祭期間中に開催され、2019年は台風19号による浸水被害のため等々力キャンパスで実施、2020年、2021年はコロナ禍によりオンラインにより実施、2022年はハイブリッドで開催はいたしました。懇親会は実施せず、世田谷キャンパスで懇親会が実施されたのは、実に5年ぶりとなりました。当日は天候にも恵まれ、卒業生をはじめ現役教職員、退職教職員を合わせ230名が会場に駆けつけ、久々の再会を果たしました。

懇親会は、主催者代表として三木千壽学長、松村慶一校友会会長の挨拶から始まり、在学生代表挨拶では電気電子通信工学科3年、学生団体連合の釘持恒丞さんから歓迎の挨拶がありました。乾杯の挨拶は大上浩副学長から挨拶があり、その後懇親会がスタート。歓談時にはアカペラサークルGrooveのメンバー約20名による学園歌、校歌の演奏も行われ、大変迫力のある演奏に参加者の方々も聞き入っていました。卒業生代表挨拶では石田弥様からご挨拶をいただき、中締め挨拶は校友会常任幹事の荒井翔平様からご挨拶をいただきました。参加者の方々には豪華な食事を前に、卒業生同士はもちろんのこと、懐かしい先生方との再

会もあり、終始とても和やかな懇親会となりました。

今年のホームカミングデーの特徴は20～30代の卒業生にも多くご参加いただき、世代を超えた交流が行われたことだと思います。今後も20～30代の卒業生の参加が増え、世代を超えた交流が活発になることを期待しております。

懇親会終了後、卒業生の皆様は久々に活気溢れる世田谷キャンパスでの学園祭も満喫されておりました。今年も多数の卒業生の皆様にご参加いただきましたことを厚く御礼申し上げます。来年も皆様にお会いできることを楽しみにしております。



横浜キャンパス

会報編集委員会委員 三川 健太（2005環境情報）

横浜祭初日である2023年9月17日に楷の木会主催の2023年ホームカミングデーを開催しました。2019年以来の対面開催となったこともあり、当日は過去最大規模となる100名余りの方にご参加いただきました。

第一部の横浜キャンパストークライブ"YC talks"では卒業生による講演「卒業生達のいま、そしてこれから」、ならびに特別講義「社会人になった君たちに贈る補講」を行いました。

このうち、卒業生による講演「卒業生たちのいま、そしてこれから」では、郷なおこさん（2006年度環境卒）による「知人には波乱万丈・嵐のような半生と言われるけど、本人はいたって当たり前と思っている半生のご紹介」、枝迫雄大さん（2020年度環境卒）による「Paddle your own canoe - まだ悩んでる途中で -」、磯川茂克さん（2006年度環境卒）による「ブラック企業から主夫へ」というタイトルで卒業後のキャリアやご経験をお話いただきました。

特別講義では、環境学部環境経営システム学科佐藤真久教授より「VUCA社会（変動・複雑）への向き

合い方」というタイトルでVUCA（変動・不確実・複雑・曖昧）の時代において、どのような問題が存在しているか、またどのように過ごしていくべきか、という点についてご講演を賜りました。

第二部では、場所を3号館5階YCホールへと移し、懇親会を開催しました。ご退職された教職員の方々、卒業生、現役の学生なども参加し、旧友やお世話になった方々との思い出話に花が咲いているようでした。また、卒業生だけでなく現役学生の参加もあり、卒業生たちと交流をしている様子が見られました。次年度も今回同様、対面で皆様とお会いできることを楽しみにしております。



～人生100年時代～

生涯キャリアサポートプログラム

卒業生のためのキャリア支援特別部会

部会長 和多田 雅哉 (1984 電気)

校友会では、2022年3月に、卒業生を対象とした「キャリア支援」を行なう特別部会を立ち上げました。プログラム名称は「～人生100年時代～ 生涯キャリアサポートプログラム」です。

本部会では多様な「コンテンツ」を準備しており、現在までに構築したプラットフォームにて卒業生の皆様に4項目の「コンテンツ」＝「柱」を提供しております。

<1>「キャリア形成を啓発する講演会」の開催

現在までに以下の2回の講演会を実施致しました。今後毎年1～2回の講演会を準備する予定です。

○第1回講演会(終了)

2022年11月26日(土)に豊田義博先生(ライフシフト・ジャパン株式会社 取締役 CRO/ライフシフト研究所 所長)を講師にお招きして、テーマ「人生100年時代楽しむ4つのポイント～日本版“ライフシフトの法則”～」として実施致しました。大変多くの校友会会員の皆様にご参加頂き、盛況のうちに終了致しました。(※本講演の様子は、アーカイブ配信にて会員の皆様に提供)

○第2回講演会(終了)

2024年1月27日(土)に前川孝雄先生(株式会社 FeeWorks 代表取締役 / 青山学院大学 兼任講師)を講師にお招きして、テーマ「幸せなキャリアを創る! 学び戦略～リスキリングのスタートに向けて～」として実施致しました。第1回に続き大変多くの校友会会員の皆様にご参加頂きました。(※本講演の様子は、アーカイブ配信にて会員の皆様に提供予定)

<2>「ワークショップ」の開催

現在までに以下のワークショップを開催致しました。年間で4回程度の開催を予定しております。今後も徐々にメニューを増やす予定です。例えば「キャリア形成を整理するワークショップ」や「ファイナンシャルプランに関するワークショップ」などです。

○第1回ワークショップ(終了)

2023年5月27日(土)に奥村彰太郎先生(一般社団法人ビューティフルエイジング協会 理事/NPO法人キャリアカウンセリング協会 認定トレーナー)を講師にお招きして、テーマ「人生100年時代のマネープランを考える～30代～50代で知っておきたいマネー知識～」として開催致しました。ご参加頂いた校友会会員の皆様には、ご自身のライフプランやキャリアプランを考えるきっかけを提供させて頂きました。(※本ワークショップの様子は、アーカイブ配信にて会員の皆様に提供予定)

<3>「個別キャリアカウンセリング」の実施

国家資格を保有する卒業生のキャリアカウンセラーと、個別に面談ができるシステム構築を進めております。

(1回45分程度の面談を予定)

<4>「ホームページ」による情報提供

現在、校友会のホームページに「～人生100年時代～生涯キャリアサポートプログラム」のリンクページを公開しております。今後、「学び直しのリカレント教育情報」「ハローワーク活用法」「転職情報」なども提供する予定です。特にリカレント教育につきましては、大学でも「リカレント教育センター」という部署が新設され、卒業後も大学での学びの場を提供することが可能になりますので是非ご期待ください。

※背景・ねらい(本特別部会の目的)

最近よく耳にするようになった言葉の一つに『人生100年時代』があります。各企業などで活躍される現役世代がおかれている社会環境は大きな変化が予測され、自ら意識してキャリアを形成することで充実した人生を過ごすことができる時代となりました。今後も少子高齢化が進み、人口の減少や労働人口の減少が予測される一方で、AI、VR、ARなどの技術革新により働き方にも大きな変化の波が押し寄せてきています。リスキリング(Reskilling)、副業、転職が注目され、一つの会社で定年まで働くという終身雇用は今後更に減少し、企業に依存しない個人の働き方がより重要になってくることから、自ら意識してキャリア形成を行うことがより重要になります。卒業生の皆様が自らのキャリア形成に向けた方向や具体的な取り組みについて整理し、時代の変化に対応できる準備活動を始められる情報やきっかけを校友会が提供する、その仕組みづくり、すなわち「プラットフォームの構築」が本特別部会の目的です。



「～人生100年時代～ 生涯キャリアサポートプログラム」
<https://tcu-alumni.jp/career-support/>

東京都市大学リカレントプログラム

新たな「教養」を実装する。

東京都市大学リカレント教育センター長
関 良 明

■知識の根幹を学び、社会の変容に対応する

社会の急速な変化に対応し、新たな知識とスキルを習得することは、現代に生きる私たちの課題です。東京都市大学では、学び、成長したいと願う社会人の皆様に、本学が有する最高の教育とリソースをベースにした新たなプログラムをスタートしました。

人工知能（AI）やIoT（モノのインターネット）、環境問題など、社会で話題になるものの多くは、もはや理工系を専門とする人たちだけが扱うものではありません。現代に生きる誰もが関係するものです。理工系の基礎的な教養を身につけることで、自分の専門外のことにも柔軟に対応することが可能になります。

■社会のニーズを反映した実践的なプログラム

東京都市大学リカレントプログラムは、企業や地域・産業界と連携して、本学が得意とする応用的なデジタル・グリーン分野、専門的実践力の知識・技術の修得を目指す、社会人向けの実践的なプログラムです。社会のニーズを的確に反映させるため、各分野で高い知見を持つ方の協力により事業実施委員会を設置し、職務におけるデジタル化への対応や、自らの職務におけるイノベーション等を実践することに寄与することが可能になる科目を開講します。また、

講師には、本学の教授陣を始め、専門の分野に秀でた特任教員の招聘を行うなど、授業の質を高めています。

■ブレンド型授業が深い学びと課題の共有を実現

プログラムの開講科目は、受講生が自らの必要に応じて選択し受講することが可能です。知識の習得を行うオンデマンドと、ディスカッションが中心の対面授業とを繰り返し行う「ブレンド型学習」で、学習効果の向上を実現します。対面型の授業は、参加者のコミュニケーションを活発にし、問題意識を共有することでイノベーション創出を後押しする場としても機能することでしょう。

渋谷を起点とした講座には、高いレベルのアカデミックな学びの中から「成長したい」という思いをもった様々な人が集まります。現在のキャリアを高めたい。企業のリーダーとして活躍したい。また、専門家から学び、新しいアイデアを共有したい。同じ気持ちを持つ人と一緒に学びたい。そのように思う皆様を東京都市大学は歓迎いたします。

お問い合わせ先

東京都市大学

キャリア支援課（リカレントプログラム担当）

TEL：03-6809-7572 MAIL：recurrent@tcu.ac.jp

URL：https://www.tcp.ac.jp/

新たな「教養」を実装する。

＜2024年1月開講＞東京都市大学リカレントプログラム

デジタル・グリーン等成長分野に関する能力を身につけた即戦力人材を社会に輩出するため、リカレント・リスキルプログラムを開始します。同プログラムは、DX企業が集積しアクセスに優れた渋谷を中心に、オンデマンド型と対面型の授業を組み合わせた反転授業を実施します。またオープンバッジ（学修履歴証明のデジタル化）により、マイクロレディンシャル制度を導入します。





ガルシア ユウジ 氏

出身：東京都

所属：株式会社 LEAN BODY (CTO 兼エンジニアマネージャー)

2017年3月 東京都市大学 知識工学部 経営システム工学科 卒業

2019年3月 東京都市大学 大学院 工学研究科 システム情報工学専攻 修了

一学生時代に経験されたことで特に印象に残っていることを教えてください。

大学院のタイミングでは企業でインターン生としてエンジニアの実務の経験を多く積むことができました。僕自身すごいスキルアップになって就職でも大幅なプラスになっていました。大学院2年の時にインターン先を後輩に引き継ごうと思ったのですが、当時からずっと思っていた事が、僕が大学1,2年生の時にインターン生としてスキルを身につけていたら、どれだけ成長できていたんだろうと...。そこで当時TAを行っていたプログラミングの授業で一際優れた学部生にインターンを紹介しました。その後、彼はインターン生として大活躍していると聞いております。その後の就職先等は把握しておりませんが、一角になるようなきっかけを僕が少しでも作れたのであれば、非常に良い思い出だなと思っています。

一研究室での活動で印象的なエピソードがあれば教えてください。

大学院での経験で、研究室の岡先生と論文を読んで共有する会を約1年行っていました。論文を読んで共有するということは、読解力・想像力・論理的思考能力など様々な思考性を鍛える必要があり、100本の論文を読み終える頃には想像以上に自身のスキルがアップしていました。この自覚が芽生えたのは、大学院の終盤で自身の質問力が向上していたことや、社会に出てから論理的思考能力の高さで仕事が成功したことなどのタイミングで、今でも大きな自信に繋がっております。

一就職先を選択するときどのような点を重視されましたか？

僕は根っからのベンチャー思考の学生で、就職先も自身の成長に繋がることが大きな条件でした。当時の僕の思考は、将来ベンチャー企業でエンジニアの責任者 (CTO) として会社を上場させるためには、一度は上場企業で仕事をする必要があると考えておりました。そこで新卒カードの切り方で自社サービスの上場企業に就職すること、2~3年でベンチャーに転職できるように入社直後から即戦力として迎え入れてもらうことを自身の条件として就職活動を行いました。しっかりと条件通りの企業に就職し2年間で大幅なスキルアップを達成、その後は現職 (株式会社LEAN BODY) であるベンチャー企業に

転職し、エンジニア責任者 (CTO) まで登り詰める事ができました。

一印象に残っている業務での経験などがあれば教えてください。

CTOとして会社の経営に関わるようになってから、エンジニアメンバーの評価制度の整備・中途採用の実施・事業計画の理解と採用戦略の整備など、これまでエンジニアとして開発に従事している業務から、より会社の経営的な視点を求められるようになり、まだまだ成長する必要・余地がある事が非常に印象に残っております。これからはより中長期的な視点で企業の成長を支え、エンジニア組織を拡大していく業務をしっかりと遂行する必要があります。本当に楽しみ・ワクワクが非常に強いです。

一本誌は、学位授与式の日配布される冊子ですので、卒業生に向けた先輩からのメッセージを頂ければと思います。

誰にでも良いアドバイスをすることが苦手なので、誰か一人にでも刺されば嬉しいなと思っています。社会に出たら最初の5年間は「求められている以上の結果を常に返せ!」と伝えたいです。資本主義の国で仕事する場合は基本的に「自身の成長×企業の成長」の歯車をどれだけ回せるかが一番の肝になります。どちらかの歯車が止まると、もう片方の歯車が停止してしまいます。そして、期待以上の結果を出すことは自身の成長に一番繋がると僕は考えています。更に企業の成長に一番大事なことは人材の成長だとも考えております。歯車を自身で回せる力を5年で身につけて、27~29歳になったら、次は後輩に対して貴方が成長させられる側になって欲しいです。そのためにも、新人が期待以上の結果を出すにはどうすべきか?を常に意識して今から助走が開始すると思って欲しいです。更に10年後の32~37歳のタイミングでは会社を経営する側の視点に立って、仕事できるようになって欲しいです。期待した人が成果を出して、出世するための席を用意することがその時の貴方の仕事になります。そして、誰よりも結果を出した都市大の卒業生とぜひ一緒に仕事をしたいと僕は考えております。ぜひ、ヘッドハンティングしてもらえると嬉しいです。それまで僕は死ぬ気で働いて、誰よりも成長して成果を出して待っていたと思っています。今日から10年後、ワクワクしますね!



野々山 正章 氏

経歴：2005年3月 武蔵工業大学 環境情報学部 環境情報学科 卒業
2007年3月 武蔵工業大学大学院 環境情報学研究所 環境情報学専攻 修了
2007年4月 株式会社ソフトデバイス 入社
2021年10月 株式会社ゆめみ 入社
(山と道 組織開発ディレクター、立命館大学デザイン科学研究センター DML 客員研究員を兼務)

「本日はよろしくお願ひします。遠方にお住まいということで、オンラインにてインタビューさせていただきます。まず、学生時代に印象に残っていることについてお聞かせください。」

自身の指導教員の先生のみならず、他の先生方に研究の話などを聞かせていただける機会に恵まれた、という印象があります。私は学部時代には情報デザインについて研究し、大学院進学後には状況的学習論という認知科学の一分野について研究を行いました。分野は異なるものの、興味が近い先生がたくさんおられた、ということも大きな理由の一つであると思いますが、研究活動における数々のご助言、ご指導を指導教員の先生以外からいただくことができました。教員、学生という立場の違いに関わらず、お互いにリスペクトするような風潮があったと感じています。直接の指導教員ではない先生のご執筆された書籍の表紙をデザインさせていただいたり、図表を作成したり、共同で研究した内容を学会で発表させていただいたり、今思えば貴重な体験をたくさんさせていただきました。

また、先生方のみならず、職員の方々にも様々なサポートをしていただきました。学生たちが中心となってデザインの研究をするためのポータル研究会を企画した際には、「そういう発想があるならやってみたらどう？」と、費用、場所などの面で手助けをいただきました。このようにして実施した研究会の活動は学会での発表につながるなど非常に良い経験となり、今に生きています。



これまでに携わった書籍

「大学院を修了してから、現在に至るまで、ご経験なされた業務や印象に残っていることを教えてください。」

大学院修了後、ソフトデバイス株式会社へ入社しました。そこでは、自動車、医療機器、家電製品などのアドバンスドデザインを主に行っていました。アドバンスドデザインは、未来をデザインする、とも言われるようにデザイン開発のためのデザインを行うものです。私は、ユーザインターフェースと言われ

る操作部のデザインが専門ですので、プロトタイプングしながらデザインを変更しました。それ以外にも、会社の育休制度の構築や、就業環境をより良くするような取り組みも行い、社員の就労環境の改善など多様な働き方を支える仕事にも力を入れました。

その後、家庭環境の変化や自身の更なる可能性を求めて転職し、現職である株式会社ゆめみへ入社しました。組織体系や働き方など、非常にフレキシブルな会社であり、現在はフルリモートで働いています。入社後間もなくして、CDO (Chief Design Officer) に任命していただきました。今もユーザインターフェースのデザインなどを手がける傍ら、採用に関する業務や人材育成についても担当しています。つい先日、我々がデザインを支援したスマートフォンアプリが2023年度グッドデザイン賞を受賞するなど、やりがいのある日々を送っています。また、お世話になった先生からのご紹介で立命館大学にて非常勤講師も務めており、これまでの経験を、後進の学生たちに伝えるよう、サポートを行っています。



グッドデザイン賞を受賞したアプリケーション

「本誌は3月の学位授与式に合わせ、卒業する学生にも配布されます。卒業する後輩たちへメッセージをいただけますでしょうか。」

これから4月を迎え、まさに「始まり」のタイミングだと思います。これまでに身を置いていた環境よりも、さらに広いつながりを作ることができる良い機会です。私自身は、「知り合いは増やしたくない、友人を増やしたい」ということを意識してこれまで過ごしてきました。挨拶だけをする関係の人をただ増やすということではなく、しっかりと議論ができて、お互いに意見を言い合えるような関係をたくさんの人と築く、ということです。臆せず自分自身を開示し、たくさんの方を作っていくことがより大きなことを成し遂げるための礎の一つになるのではないのでしょうか。仕事だけに邁進するのではなく、「拡げる」ということも考えながらこれからの社会人生活を過ごして行ってほしいです。頑張ってください！

本年度は新型コロナウイルス感染症が第5類となり、多くの地方支部が3年ぶりに総会を開催しました。本誌では写真を紹介いたします。記事はHPの各支部欄掲載されております。どうぞそちらも併せてご覧いただき、地方支部の活躍ぶりを感じてください。
 なお、2024年1月～3月開催の支部総会については次号掲載予定です。

群馬支部 2023/06/03(土) 13:00～



広島支部 2023/06/10(土) 16:30～



静岡支部 2023/06/03(土) 14:30～



秋田支部 2023/06/17(土) 17:00～



島根支部 2023/06/03(土) 15:00～



栃木支部 2023/07/01(土) 15:00～



徳島支部 2023/06/08(木) 18:30～



千葉支部 2023/07/01(土) 14:30～



支部だより

鳥取支部 2023/07/01(土) 15:30～



富山支部 2023/07/09(日) 17:00～



茨城支部 2023/07/08(土) 11:30～



山形支部 2023/07/22(土) 18:00～



福島支部 2023/07/08(土) 16:00～



東海支部 2023/07/22(土) 15:00～



京滋支部 2023/07/08(土) 11:15～



長野支部 2023/07/23(日) 10:30～



米国支部 2023/09/02(土) 8:00～



新潟支部 2023/10/14(土) 13:00～



横浜支部 2023/10/14(土) 16:00～



埼玉支部 2023/09/02(土) 15:00～



川崎支部 2023/10/21(土) 14:00～



山梨支部 2023/09/02(土) 15:00～



宮城支部 2023/10/28(土) 17:00～



支部だより

佐賀支部 2023/10/28(土) 18:00～



高知支部 2023/11/18(土) 16:00～



和歌山支部 2023/11/04(土) 10:30～



兵庫支部 2023/11/19(日) 12:00～



北海道支部 2023/11/10(金) 18:00～



大分支部 2023/11/11(土) 17:30～



熊本支部 2023/11/25(土) 17:00～



福井支部 2023/11/25(土) 11:30～



福岡支部 2023/12/03(日) 17:30～



職場支部だより

「2023年度 職場支部長会」開催報告

支部委員 勝又 英明(1980建築)

2023年12月15日(金)18:30から対面で、東京都市大学校友会館・自由が丘クラブにおいて「2023年度 職場支部長会」を開催しました。主なテーマは「校友会運営活性化のための職場支部のあり方(意見交換)」でした。

職場支部は27支部あります。今回参集いただいたのは6支部(川崎市役所、飛鳥柏会、エクシオグループ柏会、こうえい柏会、安藤ハザマ柏会、ライト工業柏会)と支部立ち上げ準備中の三機工業株式会社でした。校友会本部からは松村慶一会長、松浦弦三郎支部委員長以下支部委員、事務長が出席いたしました。27支部中6支部の出席は少々残念でしたが、密度の濃い意見交換となりました。次回の職場支部長会ではさらに多くの職場支部の皆様にご出席いただきたいと思います。意見交換で出ました主な意見は次の通りです。

■職場支部の設立の経緯と会社の認知について

- ・職場支部のあった会社が3つに分社化したのが、グループとして職場支部を構成している。
- ・10年前に2つの会社が合併して現在の会社になった。その1社に職場支部があり、その支部を引き継いで現在の職場支部としている。
- ・職場支部の設立以前は卒業生の横のつながりがなかったが、ある卒業生(前会社には職場支部があった。)が中途入社し、その方の働きかけで職場支部を作ることとなった。
- ・会社よりリクルートを考慮して職場支部を作るように働きかけがあった。
- ・職場支部の存在は公認ではないが会社としては認知している。

■総会について

- ・総会は毎年ほぼ同じ時期に大学、校友会からも出席を得て開催している。新人歓迎やリクルートへの対応を兼ねて、人事担当者も参加している。
- ・1000円/月の会費を預かっている。毎年総会を行い、数年に1度泊りがけで総会を行っており、会費はその費用に充てている。泊りがけ総会に欠席の会員には見合った品物を用意している。
- ・総会では少し多めに会費を集め、支部の運営に充てている。
- ・総会には退職者も参加している。
- ・新年会、忘年会を行っており、その際に総会も開催している。
- ・新入社員が入ると総会を開催している。

■職場支部のメリット

- ・同じ会社の違う職種の社員と触れ合う機会があり、業務に関

する相談を気軽にすることができる。

- ・同窓生の親睦の機会として重要である。
- ・新入社員との顔合わせや大学、校友会との対応など、リクルートには非常に役に立っている。
- ・職場支部が大学・校友会との窓口になるので、情報を得たり、依頼したりする際に有効である。

■地方支部について

- ・会社は地方転動もあり、それぞれの地方での地方支部にも参加していた。
- ・それぞれの地方のいろいろな業種の卒業生と交流ができて、仕事にも生かせることもあった。

■リクルートについて

- ・校友会主催の「卒業生による進路相談会」や各学科の企業研究会に参加している。「卒業生による進路相談会」は卒業生みの参加によるもので、人事は参加できないスタイルであった。
- ・3年生の夏にインターンを行うため、夏前6～7月に進路相談会をして欲しい。(校友会：このスタイルや実施時期は今後変更される可能性があるため、大学・校友会からの情報に注意をして欲しい。)
- ・進路相談会は若いリクルーターを連れて行った方が良いようだ。
- ・新入社員の名簿は人事に依頼したり、いろいろな情報網で入手したりしている。大学名を公表することに対して積極的ではない会社もある。新入社員の名簿を大学や校友会から提供して欲しい。(校友会：個人情報の問題もあり情報提供は難しい。今後は校友会オンラインを活用する方向で検討を進めたい。)(校友会：海外インターンシップへのエントリーの依頼がある。数支部が興味を持っていただいた。)

職場支部の皆様方には、今回出た意見を参考に、職場支部運営をしていただきたいと思います。また、職場支部設立をご希望する会社がありましたら、是非校友会事務局までご連絡ください。職場支部設立を歓迎いたします。



東京都市大学 校友会発足10年の歩み

2024年1月現在

年度	実施年月	実施項目
2013年度	2013年4月	<ul style="list-style-type: none"> ●「東京都市大学校友会」発足。
		<ul style="list-style-type: none"> ●初代会長に松下正勝（1965 土木）が就任
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ●校友会発足式開催（渋谷エクセルホテル東急）
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ●2023年度定期総会開催（世田谷キャンパス）
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ●第1回親睦ゴルフ大会実施（源氏山ゴルフクラブ）【以後2019年度まで毎年度ゴルフ大会開催】
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームカミングデー実施（世田谷キャンパス）
2014年3月	<ul style="list-style-type: none"> ●<学位授与授与式>「校友会賞」授与（各学科又は専攻毎に1名）、全員へ学位記フォルダー贈呈【以後毎年度実施】 	
2014年度	2014年5月	<ul style="list-style-type: none"> ●校友会会報創刊号発行
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームカミングデー実施（横浜キャンパス） ●2014年度定期総会実施（世田谷キャンパス）
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームカミングデー実施（世田谷キャンパス、等々力キャンパス）
	2015年2月	<ul style="list-style-type: none"> ●東京スカイツリー展望デッキと浅草老舗の味バスツアー実施
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ●緊急奨学金貸与（4年次後期授業料額）：1名【以後2015年、2020年度各1名】 ●校友会報名を「都市」と命名発行（第2号）【以後毎年度3月発行】
2015年度	2015年4月	<ul style="list-style-type: none"> ●2014年度の大学事業（英会話講座、TOEIC受験料、100円朝食等）支援として、780万円寄付【以後2017年度まで毎年度寄付執行】
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームカミングデー実施（横浜キャンパス） ●全国支部長会実施（渋谷エクセルホテル東急） ●2015年度定期総会実施（同上） ●第2代会長に吉田勝（1968 建築）が就任
		<ul style="list-style-type: none"> ●総会后講演会実施 講演会テーマ：「都市大のアクションプランの実現に向けて」講師：三木千壽学長
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ●大学主催の「東京都市大学フェア in 静岡」（開催地：浜松）に協力 ●第1回「校友会のあり方検討会」実施【以後2020年度まで8回実施】
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ●「屋形船」親睦会実施
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームカミングデー実施（世田谷キャンパス、等々力キャンパス）
	2016年2月	<ul style="list-style-type: none"> ●第1回夢キャンパスセミナー実施 講演テーマ：「共同通信記者37年メディアからキャンパスへ 学縁を広げよう」講師：角田光男氏（大学特命広報ディレクター）
2016年度	5月	<ul style="list-style-type: none"> ●2016年度定期総会実施 ●総会后講演会実施（世田谷キャンパス） 講演テーマ：「宇宙・人・夢をつなぐ」講師：山崎直子氏（元宇宙飛行士）
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ●世界遺産・富岡製糸工場バスツアー実施
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ●第2回夢キャンパスセミナー実施 講演テーマ：「震災後のサポートとまちづくり〜いわき市久之浜・大久保地区での実践とこれから」 講師：栗田祥弘（1998 建築） 鈴木伴栄氏（いわき市・「ふるさとだより」記者）
	2017年1月	<ul style="list-style-type: none"> ●第1回「校友会進路相談会」（世田谷キャンパスにて実施）
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ●大学と共催 第1回「軍艦島」講演会実施（夢キャンパス） 講師：濱本卓司名誉教授、中村陽一氏（1963 建築）【以後2017年度まで2回開催】

2017 年度	2017年4月	●維持会費受付開始。	
	6月	●ホームカミングデー（横浜キャンパス）実施	
		●2017年度定期総会実施 ●総会後講演会実施 講演テーマ：お風呂・温泉を使った健康づくり 講師：早坂信哉人間科学部教授	
	10月	●第3回夢キャンパスセミナー実施 講演テーマ：「南極に建てた風車～南極観測隊出張報告～」 講師：中村英明氏（1994年機械）	
	11月	●ホームカミングデー（世田谷キャンパス、等々力キャンパス）実施	
	12月	●サッポロビール千葉工場と南極観測船見学会実施	
2018 年度	11月、12月	●「都市大校友オンライン」の運用開始（以後メールアドレス登録者へ各イベント・お知らせ等の一斉配信実施、開示許可者の個人情報閲覧可能） ●第2回「校友会進路相談会」実施（世田谷キャンパスにて開催、日数：2日）	
	2018年6月	●ホームカミングデー（横浜キャンパス）実施 ●全国支部長会実施 ●2018年度定期総会実施 ●第3代会長に原口兼正（1974通信）が就任	
		●総会後講演会実施（世田谷キャンパス）。 講演テーマ：「北朝鮮のほほえみ外交」 講師：李洪千情報メディア学部准教授	
11月	●ホームカミングデー（世田谷キャンパス、等々力キャンパス）実施 ●第3回「校友会進路相談会」を開催（世田谷キャンパスにて実施：日数：2日） ●「日本遺産・大谷石文化を探るバスツアー」を実施（栃木支部と連携して実施）		
	2019年1月	●大学からの要望により英語力向上等大学事業への支援を博士号取得奨励奨学金施策へ切り替えて支援（500万円寄付）【以後毎年度寄付執行】	
2019 年度	2019年5月	●2019年度定期総会実施 ●総会後「卒業生による海外インターンシップ体験報告会」実施	
	6月	●ホームカミングデー（横浜キャンパス）実施	
	11月	●ホームカミングデー（等々力キャンパス）実施	
	11月、12月	●第4回「校友会進路相談会」開催（世田谷キャンパスにて実施、日数：2日） ●茨城県の歴史と自然・海の幸を満喫するバスツアー実施（茨城支部と連携して実施）	
	12月	●台風19号による世田谷キャンパスの水害に対する復旧支援として、大学へ1,000万円寄付。	
	2020年1月	●第4回夢キャンパスセミナー実施 テーマ：ゼロからの出発！夢みたソーラーカーでのオーストラリア縦断参戦。そして高みへの挑戦！ 講師：<ソーラーカーチーム柏会>福北博史氏（1993年・機械）、伊倉和弘氏（1996年・機械）	
2020 年度	2020年4月	●新入生全員へ卒業生が開発プロジェクトに参画したシャープペンシル（校友会ロゴ入り）贈呈【以後毎年度新入生へ贈呈実施】 ●東京都市大学校友会リサイクル募金開始	
	6月	●コロナ禍で大学は遠隔授業となり、PCを所有していない学生にPCを大学が貸与するための資金、2,000万円寄付	
	9月	●2019年の台風19号による世田谷キャンパスの水害に対して義援金の募金を実施し、納入いただいた義援金（7,048,190円）を大学へ寄付	
	11月、12月	●第5回「校友会進路相談会」をオンライン実施（日数：2日）	
	12月	●ホームカミングデー・オンライン実施	
2021 年度	2021年5月	●2021年度定期総会オンライン実施 ●第4代会長に松村慶一（1974機械）が就任	
		●総会、講演会オンライン実施。 講演テーマ：「都市大創立100周年に向けてのビジョン」 講師：大上浩、野中謙一郎、関良明 各副学長長	
		●「リアル脱出ゲーム」（RING企画）をオンライン実施	
	10月	●拡大全国支部長会オンライン実施	
	11月、12月	●第6回「卒業生による進路相談会」をオンライン実施（開催日数：3日）	
12月	●ホームカミングデー・オンライン実施		

10周年記念特集

2022 年度	2022年5月	<ul style="list-style-type: none"> ●全国支部長会ハイブリッド実施 ●2022年度定期総会ハイブリッド実施 ●総会後講演会ハイブリッド実施 講演テーマ：『今、中世期のここが熱い！～大河ドラマ「真田丸」の舞台裏～』 講師：丸島洋一 共通教育部准教授 	
	6月	●ホームカミングデー・オンライン（横浜キャンパス）実施	
	7月	●「SDGs ワークショップ」（RING 企画）夢キャンパスにて実施	
	11月	●ホームカミングデー・ハイブリッド実施（世田谷キャンパス）	
		●校友会 10周年記念・タイアップ企画「大学ピアノコンサート」実施（如学会企画）	
		●【人生100年時代～生涯キャリアサポートプログラム】（企画運営：卒業生のためのキャリア支援特別部会） ＜キックオフ講演会＞オンライン開催。テーマ：「人生100年時代を楽しむ4つのポイント」 講師：豊田義博氏＝ライフシフト・ジャパン（株）取締役 CRO	
	12月	●校友会 10周年記念・タイアップ企画：「在学生によるエレクトーンコンサート」（川崎支部企画）	
●第7回「卒業生による進路相談会」（世田谷キャンパスにて開催、日数：2日）			
2023年2月	●校友会 10周年記念・タイアップ企画：「鎌倉歴史散歩～北条と比企の足跡を訪ねて」（神奈川・湘南支部企画）実施		
2023 年度	2023年4月	<ul style="list-style-type: none"> ●同上企画＜講演会＞「本学創立の経緯と建学の精神」講師：白木尚人教授（1991 機械）（川崎支部企画）実施 ●同上企画：＜講演会＞「電気自動車（EV）ー動く乾電池ーで目指す接続可能な社会の実現」 講師：貝瀬泰基氏（2006 メディア情報）（株）エナリス、執行役員最高責任者（電友会及び通友会企画）実施 ●2023年度定期総会・ハイブリッド実施（世田谷キャンパス） 	
	5月	●総会後校友会 10周年記念講演会・ハイブリッド実施（世田谷キャンパス） 講演テーマ：「星のかけらを採りにいく：はやぶさ2の技術とマネジメント」 講師：JAXA 宇宙研究所 はやぶさ2 プロジェクトマネージャー 津田雄一教授	
		●【人生100年時代～生涯キャリアサポートプログラム】＜ワークショップ＞オンライン実施。 テーマ：「人生100年時代のマネープランを考える」講師：奥村彰太郎氏（ビューティフル エージング協会理事）	
	7月	●校友会 10周年記念タイアップ企画：「吹奏楽団 OBOG 楽芸会」（吹奏楽団 OBOG 会企画）	
	9月	●校友会 10周年記念・森山良子ディナーショー実施（セルリアンタワー東急ホテル）	
		●ホームカミングデー（横浜キャンパス）実施	
	10月	●校友会 10周年記念・タイアップ企画「シャインマスカット狩りツアー」（RING プロジェクト企画）実施	
	10月、11月	●校友会 10周年記念・各地域ブロックゴルフ大会（本部と各地域ブロック共催）・7地域ブロック毎に実施	
	11月	●ホームカミングデー（世田谷キャンパス）実施	
		●校友会 10周年記念・タイアップ企画「秋の見学会・旧池田氏庭園」（秋田支部企画）実施	
		●同上企画「江の島神社参拝と新江の島水族館見学会」（神奈川・湘南支部企画）実施	
		●同上企画「どうする信玄！家康もビビった甲斐の雄、武田信玄を巡るバスツアー」（山梨支部企画）実施	
		●同上企画「柳家小糸ん師匠独演会」（九州沖縄地域ブロック企画）実施	
	11月、12月	●同上企画「鴨川シーワールドと人気の海鮮浜焼きツアー」（新美砂会企画）実施	
		●第8回「卒業生による校友会進路相談会」（世田谷キャンパスにて開催、日数：2日）	
	12月	●校友会 10周年記念・タイアップ企画＜講演会＞ 「関東大震災100年～今後の我が国の巨大災害対策のあるべき姿」 講師：目黒公郎 東京大学大学院教授（東京支部企画）実施	
		●「校友会会館のあり方検討会」実施	
		●校友会 10周年記念タイアップ企画「在校生アカベラサークルによるミニコンサート」（川崎支部企画）実施	
	2024年1月	●同上企画「サバイバルゲーム」（RING プロジェクト企画）実施	
●【人生100年時代～生涯キャリアサポートプログラム】＜講演会＞オンライン実施。 テーマ：「幸せなキャリアを創る！」講師：前川孝雄氏（Feelworks 代表取締役、青山学院大学兼任講師）			

校友会発足 10 周年記念事業計画とその実績

項目	対象	名称	概要	実施概要
I	学生支援 / 教育	アントプレナー（起業化）講座	・ 起業家（卒業生）を講師とした現役学生への起業化講座	★コロナ対策のため大学活動抑制のため未実施
	学生支援 / 助成	現役学生への給付・奨学金制度	・ 経済困窮学生への支援 / 貸与	★2021年度制定済（対象：卒業予定者）
	学生支援 / 研究室支援	研究開発支援	・ 若手研究者（博士課程研究員）への研究支援	★コロナ対策のため大学活動抑制のため未実施
	大学 / 研究室支援	産学連携支援	・ 卒業生在籍企業と大学研究室との委託研究開発連携支援	★コロナ対策のため大学活動抑制のため未実施
II	教育 / 教養	卒業生のためのキャリア支援	・ 働く世代を対象としたキャリア形成支援 ・ 卒業生のための教養講座、「趣味」「教養」を醸成する支援（講座、パネルディスカッション）	★「生涯キャリア支援プログラム」発足 ・ 講演1：人生100年時代を楽しむ4つのポイント（2022年10月） ・ ワークショップ1： 人生100年時代のマネープランを考える（2023年4月） ・ 講演2：幸せなキャリアを創る学び戦略（2024年1月）
	交流拡大 / 教養	交流クラブの発足	・ 情報媒体拡充（HP更新, facebook） ・ 自由が丘クラブを拠点とした世代間交流の場の創設 ・ 現役 / 卒業生の専門分野別交流会・セミナーの開催	★校友会HPの更新：主要行事広報特設（ホームカミングデー / 総会懇親会など） ★自由ヶ丘クラブの利用活性化・校友会歴史展示（電子データ化。デジタルサイネージにより展示 公開 2024年度）・株式会社体制拡充・利用拡大（校友会館利用実績：2023年1月～12月 99件 / 751名）
III	10周年記念イベント 交流拡大 / 広報	10周年記念校友会総会 / 記念祝祭	・ 記念講演会 / 記念コンサート	★総会記念講演会「星のかけらを採りに行く はやぶさ2の技術とマネジメント」JAXA教授 津田雄一（小惑星探査機はやぶさ2プロジェクトマネージャー）（2023年5月） ★10周年記念ディナーコンサート 森山良子（別途掲載）（セルリアンタワー東急ホテル 2023年9月）
	広報	校友会会報「都市」10周年記念特集		★校友会誌「都市」10号：10周年記念特集発行
	広報 / 記録	校友会10周年記念史		★「校友会10年のあゆみ」（2023年9月発行）
IV	交流拡大 / 支部間交流	全国縦断支部紹介&ご当地講演会	・ 地方支部およびご当地アピール紹介動画 ・ 支部・ブロック所縁、地域歴史などの講演会	★地方支部紹介動画「全国縦断MAP」HP掲載（2023年9月）
		支部相互の交流	・ 地域ブロック内 / 支部間交流懇親ゴルフ大会	★懇親ゴルフ大会（全7ブロックにて開催 参加者総数 101名） ★10周年記念タイアップ企画（各地方支部、クラブ同窓会、学科同窓会等企画 別途掲載）
	交流拡大 / 新支部	東京支部発足	・ 東京在卒業生の交流拡大 / 職場支部相互交流	★東京支部 発足総会開催（参加者総数61名 2023年2月 於 私学会館アルカディ市ヶ谷） ➡地方支部45支部（全国都道府県網羅）
	交流拡大 / 海外支部	米国支部発足		★米国支部 発足総会開催（参加者総数55名：内リモート参加46名）2022年9月 於 服部国際弁護士事務所（ワシントンDC） ➡海外（米国）インターンシップ成果発表会同時開催
校友会海外情報拠点発足（英国, 米国, カナダ, 東南アジア）		・ 働く社会人を対象に国外活動で情報支援 ・ 海外インターンシップ支援	★海外情報拠点（タイ、ベトナム、英国など）準備中	
V	情報管理	校友会 情報管理	・ 個人情報保護 規程制定 ・ サーバー管理	★個人情報に関する規程を制定（2022年）、地方支部・職場支部 学科同窓会へ展開済み

実施済み

東京都市大学校友会設立10周年記念 森山良子ディナーショー開催



受付周辺



司会



開始前会場



松村会長挨拶



五島育英会 泉理事長挨拶

2023年9月9日校友会10周年記念ディナーショーが、歌手の森山良子さんを迎えセルリアンタワー東急ホテルにて行われました。

遠方の方にも参加していただきたいと破格の参加費を設定。加えてご家族同伴可とさせていただきます。来賓を含め約380名の参加者の皆様と楽しい時間を過ごすことが出来ました。

森山良子さんと言えば…の代表曲、得意とするジャズ、大多数の参加者の共感を呼ぶ年配者向けのコミカルな曲と多岐にわたる選曲、そして何より生で聴く彼女の歌声は圧巻で最高のエンターテインメントショーでした。

参加できなかった方にも本誌面から雰囲気を感じていただければ幸いです。



三木学長挨拶



乾杯



実行委員長挨拶



実行委員 ー森山良子さんを囲んでー

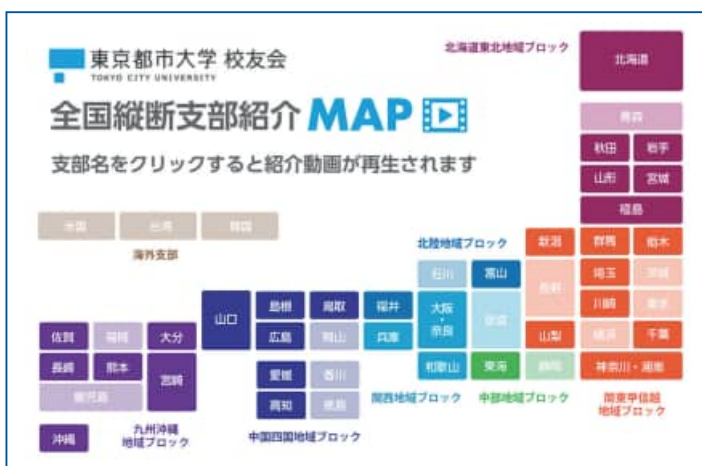
校友会10周年記念・「タイアップ企画」実施一覧

*経費の80%を本部で支援（参加費を除く） <申請期限：2023年12月、実施期限：2024年3月>

2024年1月

	企画タイトル	主催	開催日	開催場所	参加者数
1	東京都市大学「大学 ピアノ」 LIVE in如学会 建築100人展2022	如学会	2022年11月5日(土) 及び6日(日)	世田谷キャンパス建築棟1F	約550名 (4ステージ計)
2	在校生による エレクトーン・ミニコンサート	川崎支部	2022年11月26日(土)	二子玉川夢キャンパス <ハイブリッド>	46名
3	鎌倉歴史散歩第2回 ～「北条と比企の足跡を訪ねる」	川崎支部	2022年12月3日(土)	妙本寺～宇都宮辻子幕府後～若宮大路幕府後～ 宝戒寺～大倉幕府後～源頼朝の墓～ 北条義時法華堂跡～鎌倉八幡宮	38名
4	三嶋大社と時之栖イルミネーション を巡るバスツアー	新美砂会	2023年2月10日(金)	三嶋大社、三島での鰻屋食、いちご狩り、 御殿場高原にて時之栖イルミネーション鑑賞	35名
5	講演会「本学の創立の経緯と建学の精神」 (白木尚人教授)	川崎支部	2023年4月22日(土)	二子玉川夢キャンパス <ハイブリッド>	17名
6	講演会「電気自動車(EV)－ 動く蓄電池で目指す持続可能な社会の実現」 (OB 貝瀬泰基氏)	電友会・通友会 共同企画	2023年4月25日(火)	世田谷キャンパス 31B教室 <ハイブリッド>	57名
7	吹奏楽団OB・OG「楽芸会」	吹奏楽団 OB・OG会	2023年7月8日(土)	世田谷キャンパス7号館TCUホール <ハイブリッド>	145名
8	シャインマスカット狩りバスツアー	RING プロジェクト	2023年10月18日(水)	シャインマスカット狩り(浅間園)、信玄餅詰め 放題(桔梗屋本社工場)、ハイジの野菜畑(昼食)、 ハーブ園(ハーブ庭園旅日記 勝沼庭園)、シャ トレゼベルフォーレワイナリー	44名
9	秋の見学会(旧池田氏庭園)	秋田支部	2023年11月5日(日)	秋田県大仙市 国指定名勝「旧池田氏庭園」	16名
10	江の島神社参拝と新江ノ島水族館見学	神奈川・ 湘南支部	2023年11月12日(日)	江の島神社、新江の島水族館	47名
11	どうする信玄！家康もビビった 甲斐の雄、武田信玄を巡るバスツアー	山梨支部	2023年11月18日(土)	甲府駅－武田信玄ミュージアム・武田神社 見学－甲斐善光寺見学－石和温泉ホテル慶 山にて昼食－恵林寺見学－下部温泉・甲斐 黄金村・湯之奥金山博物館見学・砂金採り 体験－甲府駅	13名
12	柳家小ゑん師匠独演会	九州沖縄 地域ブロック	2023年11月25日(土)	ザ・ニューホテル熊本	32名
13	鴨川シーワールドと 人気の海鮮浜焼きツアー	新美砂会	2023年11月30日(金)	アクアライン海ほたる→和蔵酒造→漁師料 理たてやま海鮮バーベキュー→鴨川シー ワールド→道の駅「富楽里とみやま」	33名
14	講演会「関東大震災100年」 (目黒公郎東京大学大学院教授)	東京支部	2023年12月2日(日)	渋谷サテライト教室 <ハイブリッド>	111名
15	在校生によるアカペラ・ミニコンサート	川崎支部	2023年12月9日(土)	二子玉川夢キャンパス <ハイブリッド>	40名
16	サバイバルゲーム	RING プロジェクト	2024年1月13日(土)	サバイバルゲームOPS	16名

校友会10周年記念企画・全国縦断支部紹介



校友会10周年企画として、各地方支部で支部紹介動画を作成致しました。

以下のURL及びQRコードより校友会ホームページの支部紹介動画をご覧ください。



<https://tcu-alumni.jp/new/branch-intromov-map/>

■機械工学科

主任教授 白木 尚人 (1991機械)

卒業生の皆様方には益々健勝のこととお慶び申し上げます。令和5年度の機械工学科の近況をご報告させていただきます。

昨年10月に新10号館棟に引っ越しが完了し、いずれの研究室も新年度は新10号館での研究スタートとなりました。卒業生の皆様がかつて研究室で過ごされた旧10号館、旧13号館は、取り壊され、新しい建屋、施設になる予定です。何十年振りの研究室の引っ越しでしたので、まだ整理のつかない箇所は多々ありますが、心機一転、教員はじめ大学院生、学生さんも一生懸命研究に取り組んでおります。

4月より内燃機関工学研究室に崔峻豪教授、表面加工研究室に小玉脩平准教授が着任されました。両先生の今後のご活躍に大いに期待しています。また、機械工学科のこれまでの教員との研究のコラボレーションにも期待できるとしております。

写真は10号館1階の創成工房です。ここは装置等、研究室毎に割り当てられていますが、機械工学科の試験装置類が一同に集められています。これまで研究室毎に設置されていた装置ですが、他の研究室の装置、実験の様子が見ることができて、学生さん同士、大変刺激合っているようです。次に就職の状況としては9月末時点での内々定は学部生で約85%、院生が93%となっております。コロナ禍では少し厳しい就職状況でしたが、コロナ禍が明けて内定率はコロナ禍前の水準に戻って来たように感じられます。



■機械システム工学科

主任教授 秋田 貢一

機械システム工学科では2023年4月に新入生112名を迎えました。4月7、8日に開催したフレッシューズキャンプでは、初日のガイダンスと日本科学未来館の見学、二日目の恒例の紙飛行機大会を通して、新入生のモチベーションを高めてもらうとともに、新入生同士や先輩学生および学科教職員との交流の良い機会となりました。4月19日には、当学科の藪井将太准教授が令和5年度文部科学大臣表彰「若手科学者賞」を受賞しました。受賞業績名は「精密サーボ技術によるメカトロニクス機器の高度化の研究」であり、今後のますますの研究発展が期待されます。8月6、7日のオープンキャンパスは過去最高といってもよいほどの盛り上がりぶり、数回行った当学科の学科説明会にも最高100名近くの高校生とその保護者の皆様にご参加いただきました。2022年秋に引っ越しを完了した新10号館は理工学部の研究室・実験室を擁する建物で、当学科の6つの研究室は全て4階に集結し、学科の一体感が増しました。4階中央には50人程度までの授業やゼミ、また、発表会などのイベント等に利用できる学科の多目的スペース「MSE Hub」を設置し、頻りに利用されています。また、1階には、クリエイティブセンターを移設して数値制御フライスや旋盤などを整備し、ものづくりの実体験ができる施設として授業や研究に活用しています。以上のような恵まれた環境の中、学科教職員一同、教育・研究に精力的に取り組んで参ります。校友会の皆様のもますますのご健康・ご発展を祈念いたしますとともに、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



「MSE Hub」10号館4階



オープンキャンパスでの学科説明会 (2023年8月)

■電気電子工学科

主任教授 野平 博司

4月のフレッシューズキャンプは、コロナ禍も少し落ち着きつつあるということで、宿泊は不可でしたが、学外でも可ということになりました。本学科では、初日は、教務ガイダンス後、午後2つのグループに分かれてNTT技術資料館あるいは東芝未来科学館の見学をしました。2日目は、外部から講師を呼んで、友達作り、グループワーク「のりを使わず紙でタワーを作ってみよう」などを行い、新学期がスタートしました。昨年度より新入生の雰囲気明るく感じられ、対面でイベントを行うことの重要性を実感しました。2023年の学科の主なニュースは、(1) 太陽電池の研究がご専門の石川先生が着任されたこと、(2) 瀬戸先生が退職され、熊本大学に移られたこと、(3) 新10号館二期工事が始まり、写真(2023年11月27日撮影)のようにかなり進んできたことです。新棟の教室と研究室は、廊下から室内の様子が見やすくなる工夫がされています。学生が勉学や研究に頑張っている様子が廊下から見れますので、ぜひ見学に来ていただければと存じます。また、文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」に採択された、東京都市大学の「ひらめき・こと・もの・ひとづくり」プログラムは、2025年度から全学展開される予定です。最後に、令和5年度の就職状況は、88%内定(11月末時点)です。これからも100%を目指して教職員一同学生指導を工夫して行きます。学科の最新情報は、学科のブログ <http://grp.tcu.ac.jp/eece/> をご覧ください。



新10号館二期工事の様子

■医用工学科

主任教授 和多田 雅哉 (1984電気)

2007年に生体医工学科として開設した医用工学科(2013年に現在の名称に変更)は2023年で創設17年目となります。卒業生の多くは、新しい医療・医用機器の設計開発などの学際・境界領域の研究・開発者や技術者となり活躍しています。2023年現在の研究室構成は、臨床器械工学研究室(森教授、和多田)、生体計測工学研究室(京相教授)、医用電子工学研究室(桐生教授)、医用材料工学研究室(桃沢准教授)、細胞・組織工学研究室(坂口准教授(2023年4月着任)、小林講師)の5研究室体制にて運営しております。その他、実験・実習室の管理運営を担う実習管理室(柴田技士)があります。2023年の新入生フレッシューズキャンプは、アフターコロナとして学内および学外にて研修を実施いたしました。感染拡大防止策をとりながらも学外での実施は、新入生にとって数年ぶりの屋外イベントとなりました。「飯盒炊さん(カレーライス)」も復活しました。慣れない火起こし、飯盒によるご飯炊き、食材の下ごしらえ、カレーの煮込みを7~8名のグループで協力しながらカレー作りに挑戦しました。この研修は「学友や教職員との親睦をはかる」「お互いを、知り、認め合い、助け合う」ことを目的として、学生生活をスムーズにスタートさせることを主眼にしています。この経験を活かして、これからの学生生活を豊かなものとしてほしいと思います。本学科の特徴として女子学生の比率が高いことが挙げられます。2023年の新入生は約45%が女子学生であり、学際・境界領域への関心が高まっていることを示していると考えられます。今後も、学際・境界領域である「医用工学」分野への志望に対して、「教育」「研究活動」を強化していきたいと考えております。



飯盒炊さん(カレーライス)の様子

■応用化学科

主任教授 黒岩 崇

「応用化学科」に名称変更して3年目となる2023年度は82名の新生を迎えました。4月のフレッシューズキャンプでは、学科研究会(化源会)上級生の協力のもと、1日目は学内での研修と交流、2日目は上野公園と国立科学博物館での学外研修を行い、学生同士ならびに学生と教職員の交流を深めました。8月に行われたオープンキャンパスではたくさん的高校生と保護者に来場いただきました。1号館の学科説明会場は椅子が足りなくなるほどの盛況ぶり、6号館の学科展示会場では学生による演示実験や学生生活の紹介コーナーにひっきりなしに人だかりができていました。

2023年4月から奥中さゆり先生が准教授として新たに着任し、「機能物質変換化学研究室」を開設しました。11研究室、12教員の指導体制で、日々の教育と研究にあたっています。ここ数年制限されていた科学技術振興機構の「さくらサイエンスプログラム」による海外学生の短期受け入れや、研究室対抗野球大会も再会され、学科の教育研究拠点である6号館4階に学生の活気が戻っています。校友会の皆さまには、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



フレッシューズセミナー
分子模型を利用したグループワーク



オープンキャンパス 学生による演示実験

■原子力研究所

施設管理室長 内山 孝文 (2001エネルギー基礎)

「新たな研究活動の拠点として」

東京都市大学には、1960年に神奈川県川崎市麻生区王禅寺の地に開設された研究用原子炉施設・東京都市大学原子力研究所があります。2023年で開設から63年となりました。開設から今日に至るまで数多くの研究実績を残すと共に、あらゆる社会・産業界に多くの人材を輩出してきております。当研究所の原子炉は1990年に運転が停止、2004年から廃止措置中の原子炉となり、現在、運転は行われておりません。一方で、同研究所には放射性同位元素を取り扱える施設もあり、放射性同位元素を用いた学生等の放射線実習、実験並びに研究が開設当時から行われ、現在もなお利用がなされています。また、近年においては、陽子線を用いた放射線発生装置を新たに導入し、2018年から利用が可能となりました。2020年以降からは、新たな実験室(コールド実験室)を準備し、原子吸光分析、TG-DSC(熱重量・示差走査熱量)分析等が出来る、様々な分析装置を導入し、研究活動の枠を広げ、新たな研究活動の拠点として学内に限らず学外の研究者、学生等に幅広く利用されるように整備を行っています。当施設の活動状況等については、HPでも紹介しております。是非一度ご覧ください。

(原研HP: <https://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/>)



放射線発生装置



コールド実験室内分析装置の様子

■原子力安全工学科

主任教授 鈴木 徹

原子力安全工学科では2023年度に54名の新生を迎えました。新型コロナウイルスの影響により2021年度まで実施できなかったフレッシューズキャンプですが、2022年度に引き続き2023年度も日帰りながら東海村の常陸那珂火力発電所と量子科学技術研究開発機構の那珂研究所の見学に行くことができました。また、その翌日には新生全員を世田谷キャンパスの大教室に集め、グループワークを実施しました。このグループワークは、各グループがパスタ(スパゲティ)を使った構造物(塔)を作成し、耐荷重試験と加振試験を勝ち抜いていくというもので、大いに盛り上がりました。構造物の変形や壊れ方を視覚的に理解するとともに新生同士のコミュニケーションも進み、都市大でこれから原子力を学んでいくという意識が醸成されたと思います。

世田谷キャンパスでは敷地の約1/3に相当する建物をリニューアルする工事が進められています。昨年度は第1期工事の完了を受けて原子力安全工学科の全研究室と学生実験室・学科多用室が新10号館の最上階フロアに移転しました。本年度も引き続き第2期工事が行われており、卒業生の皆さんが過ごされた旧10号館は解体され、その敷地には新たな建屋が建てられつつあります。ここ数年の日本国内における原子力に対する期待の高まりに応えるべく、本学科では学生の意識の醸成、研究環境のリニューアル、教員数の増強に努めており、数年後の「都市大創立100周年」に向けて学科を益々充実させていきたいと考えています。卒業生の皆様がリニューアルを遂げた原子力安全工学科にお越しいただけること、教職員一同、楽しみにしております。今後も優秀な人材を社会に送り出すべく、積極的な活動を展開してまいりますので、ご支援・ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。



新10号館の吹き抜け廊下



原子力安全工学科のフロアから望む富士山

■自然科学科

主任教授 橋本 義武

自然科学科は定員25名で発足してから2023年度で15年目となります。理工学部自然科学科となってからは4年目、完成年度を迎え、現在の定員は60名です。歴史ある他学科の皆さまから教えられ支えられて歩んで参りました。2019年度の水害、2020-22年度のコロナ禍と、厳しい状況が続いており、学科の教育だけでなく全学の数学・理学の基礎教育をも担っている自然科学科各教員は、オンライン授業への対応等で多忙を極めておりますが、学生さんたちのため、本学の発展のため我々にできることをしっかりやって参りたいと思っております。

4月に糸井充穂教授が赴任し新しく物性物理学研究室を立ち上げ、自然科学科初の女性教授が誕生しました。自然科学科にまた新しい風が吹き、ますます充実した研究・教育が行われる学科となりますことを信じ、願っております。8月6-7日のオープンキャンパスは対面で行うことができました。本学科の魅力を高校生の皆さまにアピールすることができたと思います。11月4-5日の世田谷祭では、本学科の学生を中心とする古生物同好会の展示が高い評価を受けました。

この場をお借りして自然科学科メンバーの2023年の活動を一部ご紹介いたします。8月23日付日本経済新聞に、三畳紀に生息していた



小型爬虫類ケイチョウサウルスに関する中島保寿准教授の研究が紹介されました(写真左)。9月1日付日本経済新聞電子版に、小惑星探査機『はやぶさ2』による、惑星間塵の観測に関する津村耕司准教授の研究が紹介されました(写真右)。



■建築学科

主任教授 岩下 剛

2023年度は、昨年の入学者142名とほぼ同数の146名の入学者となり、定員120名を大きく超える入学者が二年続くことになりました。最初の行事であるフレッシューズ研修は、今年も宿泊はせず、1日目は学外での見学、2日目は学内での研修となりました。1日目はバスにて、横須賀美術館、円覚寺の見学を行い、2日目は製図室にて、ワークショップおよび交流会を実施しました。製図室での研修は、その後、製図室にて行われる設計基礎(1)やSD-PBL(1)の授業へのイントロダクションとして有効なものであったのではないかと思います。2023年度は始めから対面での授業となり、特別な事情の学生以外は、大学に来て、講義、設計、実験、演習に参加することになりました。建築学科は2020年4月に建築都市デザイン学部建築学科として教育研究を開始しましたが、発足当初から、コロナ禍での講義であり、一期生(現在の4年生)は、オンライン授業、ハイブリッド授業という特殊な環境下での学生生活でしたが、本年度は、大学祭も含め、ほぼコロナ禍前の従前どりの大学生生活となると考えられます。新規教員として、2023年4月に構造分野の特任教授として原田公明先生が着任されました。大学院も含めて構造の授業全般に関与いただきます。原田先生は日建設計にて長く、構造設計の実務に携わっておられ、卓越した多くの建築の構造設計を行っておられます。先生の構造設計に関する知識や技能が授業や研究等を通して学生に伝わることを期待しています。建築学科では2023年度入試から総合型選抜推薦入試(二段階型)の二次選考における適性検査として空間構想力試験を課しています。従来の総合型選抜の入試とは異なる方式により、新しい視点をもつ高校生の入学が増えることを期待しています。大学のリソースを高校生へのアピールを行う機会としてオープンミッションというイベントが実施されており、従来は模擬講義等を実施してきましたが、2022年からのオープンミッションは、上記の空間構想力試験実施と連動して、鉛筆ドローイングのミッションを高校生に課す内容に変更しています。学科教員からオープンミッションに参加する高校生に向けて、ドローイングのテーマを与え、参加者が作成したドローイングを登学する際に持参し、参加者全員の前でプレゼンテーションする機会を持ちます。教員によるコメントを受けた後、再度、ドローイングを作成し、二回目の登学時に、再度プレゼンテーションを行います。2023年度も20名を超える高校生参加者がありました。多様な入試形態を介し、多様な資質や能力を持つ学生が建築学科に集まることで、学科全体の研究教育活動が活性化することを期待しています。



フレッシューズ研修(横須賀美術館の前にて記念撮影)



フレッシューズ研修(横須賀のホテルでの昼食)

■都市工学科

主任教授 白旗 弘実

都市工学科の近況報告をいたします。

まずは異動ですが、中村隆司先生、三上貴仁先生が2022年度をもって退職されました。中村先生は国土計画をご専門に平成4年度から三上先生は海岸工学をご専門に平成29年度から本学で教育・研究を行ってこられました。お二人にお礼申し上げます。

2023年5月から新型コロナウイルスも5類になり、日常がコロナ前にもどりました。授業はすっかり対面となりましたが、Zoomによる録画は続いており、学生はあとから何度も見ることができるようになりました。資料の配布、課題の提出などもラーニングマネジメントシステム(LMS)であるWebClassを通じて行われるようになりました。

2022年度後期に新校舎が完成し、研究室が引っ越ししました。新校舎は10号館と呼ばれていますが、都市工学科教職員が2棟のうちの北東側1から3階に研究室を構えています。現在も二期工事と称してさらに東側に校舎が建設中です。2024年度の夏に完成予定です。土木学会全国大会、地盤工学研究発表会、地理情報システム学会の発表会などで本学科および本領域(大学院)の学生が優秀発表者賞を受賞しています。都市工学科はJABEE(技術者認定機構)に認定されているので、技術士1次試験を受けなくてもよいのですが、学科としても受験を勧めています。2022年度は28名が合格しました。柏門技術士会や校友会、卒業生の皆様の支援のおかげです。ありがとうございます。

最後にコロナ後とも関連して、緑土会が2019年以来開催されました。2023年は11月11日土曜日に行われました。2024年度も開催されることと思います。卒業生の皆様におかれましてはぜひとも足を運んでいただき、旧交を温めていただければと思います。



2019 以来の緑土会懇親会



旧13号館の跡地(奥は11号館)

■情報科学科

主任教授 向井 信彦

情報科学科の近況報告を致します。2022年度の卒業生は107名で、2023年度の新入生は106名でした。2022年度に続いて入学式は体育館にて対面で開催されましたが、入場できるのは関係者のみに限定され、一般教員はライブ中継の視聴でした。また、保証人への教員紹介も見送られ、教員が新入生と対面できたのは1年生のクラス担任ガイダンスでした。フレッシューズキャンプも当初は宿泊の予定でしたが、最終的には2022年度と同様に宿泊を伴わない2日間開催となりました。情報科学科では例年、初日にポスター発表と履修相談を行い、2日目にバスで日帰り旅行をしています。2022年度は国立オリンピック記念青少年総合センターにてチームビルディングを行いました。2023年度は千葉県のマザー牧場に行くことになりました。2022年度は学科教員全員が参加しましたが、2023年度は学科主任、教務委員、及びクラス担任2名の合計4名のみ参加となりました。上級生にはTAをお願いしましたが、上級生はフレッシューズキャンプに行けなかった世代であるためか、上級生の方が喜んでいました。長らく続いたコロナ感染症もようやく出口が見え始めたようで、5月には第5類に移行したこともあり、第1クォーターから授業は対面を基本とし、特別な事情のある場合のみオンラインが認められるようになりました。また、オーストラリアの留学プログラムTAPも計画通り実施できるようになり、中国の大連交通大学を始めとしてマレーシアなどからも多くの留学生がキャンパスに来ることで、異文化交流も盛んに行われています。就職状況もかなり改善しておりますが、精神的に弱い学生も多くなってきており、様々な問題を抱えながら教育と研究に取り組んでいます。今後とも、ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。



フレッシューズキャンプ(マザー牧場)にて

■知能情報工学科

主任教授 森 博彦

はじめに、2023年4月より新たに二ーナ・スピリドヴァ先生が講師として着任されました。ご専門は時系列解析で、大規模データ解析分野の教育を行っていただいています。ロシア人女性の先生で、日本語・英語・中国語・ロシア語に堪能で、これからのご活躍を期待しています。

本年度はコロナから明け、国際交流が盛んになりました。海外から多くの学生や先生方が訪問しています。タイのタマサート大学からの学生を3ヶ月、オーストラリアのエディスコーワン大学から1年半など比較的長期のものもあれば、1週間程度の短い滞在のものも多くあります。知能情報が主体となった受け入れは、台湾の大同大学、マレーシアのトゥン・フセイン・オン・マレーシア大学からの学生を受け入れ、1週間の研修プログラムを実施しました。また、短期の研究室への受け入れは枚挙にいとまがありません。

こちらからは、8月には提携先である台湾の大同大学と III (Institute of Information Industry) を訪問しました。知能情報工学科からは、神野先生と薩川技士と私が訪問し、神野先生と私は両組織で講演を行いました。

このように今年から海外交流が頻繁にあり、学生たちも苦戦しながらも随分と英語で会話を行う機会が増えております。



二ーナ先生と台湾大同大学学生とのディスカッションの様子

■都市生活学科

学部長 坂井 文

都市生活学部が世田谷キャンパス7号館に移転してから約1年半たちました。7号館に設けられた様々なラーニングcommonsや1階のナナカフェでは、多くの学生がそれぞれにグループワークや課題に日々取り組んでいます。学生が中心となって作成した学部パンフレットには、7号館の写真とともに学生の声も多く掲載されています。パンフレットは、学部ホームページで御覧になれます。近況のニュースとともに是非ご覧ください。https://toshiseikatsu-gakubu.jp/

新型コロナウイルス感染症の拡大も終息に向かうなか、対面での授業が再開されPBL型演習等のグループワーク活動が始まり、TAPも再開しました。国際ワークショップも対面開催が可能となり、ベトナム、マレーシアと日本の3カ国の大学の学生・教員が都市大に集まりました。短期間の日本滞在中に共同作業を行い、その後、最終成果発表はオンラインにて行うハイブリッドによる国際ワークショップとなりました。10月19日には第二回の都市生活学部フォーラムを二子玉川キャンパスにて開催しました。『未来のまちづくりとスポーツ』のテーマのもと、学部の複数の教員が地域連携として協働する世田谷区の女子サッカークラブチーム「スフィード世田谷FC」をケーススタディにした、まちづくりとスポーツの連携のあり方を探るシンポジウムには、学外からも多くの参加がありました。学生の就職活動についても、すでに各界でご活躍の卒業生やキャリアセンターのサポートもあり、ほぼ100%の就職率となりました。と同時に、大学院進学者の数も増加しています。都市生活学専攻はこれまでの修士課程に加えて博士課程が開設されており、多くの社会人博士課程学生が研究活動を展開しています。



第二回都市生活学部フォーラム開催

■人間科学科

学部長 早坂 信哉

2023年度からは学科名称が児童学科から人間科学科と変更になり、2023年度以降入学した学生は人間科学科卒業となります。2022年度までの入学者は児童学科所属ですのでしばらくは人間科学科と児童学科が併存する形になります。今のところ人間科学科の1年生の受講する授業は特に変わりませんが、学年が進むと新たに設置した理工学部の選択科目を受講する学生も出てくるものと思います。

世田谷キャンパスに移転後、地域貢献活動も活発に行っています。新しい7号館には造形室があり、保育内容表現に関わる授業が行われています。教室には陶芸窯が設置してあり陶器の制作も可能となっており、普通の授業をはじめ、実習の準備、地域との連携など、学生や社会のニーズに幅広く適応できる教室です。2023年10月に近隣小学生を招いて行った「新・才能の芽を育てる体験学習」では、この教室を使って立体表現（彫刻）をご専門の大塚習平教授による指導のもと、粘土による作品作りを体験してもらいました。

2022年9月に着任した科学教育が専門の五十嵐美樹准教授には地域貢献の一環として地域のお子さん向けの科学教室を複数回開催いただき、プロのサイエンスエンターテイナーとしての楽しいステージ展開でとても盛り上がり大盛況でした。今後、保育所や幼稚園に通うお子さんたちに科学の楽しさをどのように伝えたらよいか、という視点で学生の教育を行っていただく予定です。

また、保育所が閉まっている祝日授業日や入試の日に教職員が勤務しやすいように子育て支援センター「びびび」を託児所として活用する試みが実施されました。地域住民向けだけでなく学内教職員にも活用いただけており、人間科学科は進化を続けています。



7号館の造形室をつかった大塚教授の「新・才能の芽を育てる体験学習」学生が、小学生の作った粘土作品の仕上げをしました
五十嵐准教授の科学教室
近隣のお子さんが大喜びの地域貢献イベントでした

■環境創生学科

主任教授 飯島 健太郎

2023年度に入り、キャンパスには学生の本格的な賑わいが戻ってきました。学科の特色でもある演習、実習等の科目において、体感的に理解を深めること、地域課題を背景にして自ら提案をすること、そのプロセスとして実験や調査に臨むことなど、やはりリモートのみでは習得できないリアルな学びの重要性に教員、学生ともに認識を深めております。

3年前に入学式も出来ず授業開始が5月という不安と混乱の中でスタートした学生が現在4年生となっています。続く学年もCOVID-19下で様々な制約を受けてきました。その学生らも、生態環境分野、都市環境分野の各研究室における活発な交流、調査実験、学会発表、地域での実践的取り組みへの参画など、それまでの時間を取り戻すかのようにリアルで濃密な活動を通じて学びを深めています。

当学科では室田昌子教授のご定年に伴い、2023年4月に後藤智香子准教授（住環境計画・まちづくり）をお迎えしました。さっそく新入生の担任となり、フレッシューズキャンプではキャンパス周辺を散策し、後藤先生による「まちづくりとグリーンマトリックスの意義」の解説にピカピカの1年生は聞き入っていました。さらにご専門のお立場から学生の学びを深めるべく活発なフィールド教育を推進されています。

学生にとって環境への学び、そして人生の学びを深めるためにはOG、OBとの交流も重要であり、校友会の皆さまには今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



フレッシューズキャンプにおけるグリーンマトリックスでのフィールド学習

■環境経営システム学科

主任教授 岡田 公治

2023年度、環境経営システム学科には、90名(定員90名)の新入生が入学しました。フレッシューズキャンプも宿泊型ではありませんでしたが再開され、グループ対抗ゲーム形式で約4kmの都筑区「水と緑の散策コース」を散策し、楽しく仲間づくりを行いました。

持続可能な社会の実現、すなわち環境問題だけでなく社会問題・経済問題の同時解決が求められる中、それらの解決には国や地方行政、NGO、個人の活動のみでなく企業活動への期待が高まっています。企業経営においても環境・社会問題の解決に貢献できる製品/サービス/ソリューションにより競争力を高める戦略が主流になりつつあります。このような社会背景の中、環境学と経営学の融合領域への期待が高まっており、新たに、佐藤剛先生、兵法彩先生、森朋子先生の3名の先生をお迎えし、研究分野の観点を大幅に広げることができました。佐藤剛先生には「地形学に基づく地すべり防災」、兵法先生には「ライフサイクル思考に基づく社会課題解決のための環境工学」、森朋子先生には「資源循環とシティズンシップ」の専門的な視点から、持続可能な社会の実現に向け、研究に取組んでいきます。

新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、以前の活気あるキャンパスに戻りました。9月17-18日には横浜祭が盛大に開催され、環境経営システム学科からも、岡田[公]研究室、佐藤[剛]研究室、古川[柳]研究室、森研究室の4研究室が研究展示を行いました。高校生や保護者の方を含む多数の来場者に対して本学科で行われている研究を紹介することができました。近況は、学部ホームページ("https://fes.tcu.ac.jp/")に随時ニュースとして掲載していますので、是非ご覧ください。



フレッシューズキャンプ優勝グループ表彰

■社会メディア学科

主任教授 奥村 倫弘

新型コロナウイルスの位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類となり、授業形式はオンライン・ハイブリッド方式から対面方式へと移行しました。学生たちの元気な笑い声が響き、緑豊かなキャンパスに活気が戻ってきています。2023年8月に開かれたオープンキャンパスも対面方式で実施され、高田研究室と奥村研究室の学生が研究展示を行いました。制作したドキュメンタリー映像の放映を行ったり、3Dプリンターで印刷したモデルを披露したりと日頃の成果をアピール。横浜キャンパスOBもその場に顔を見せて旧交を深めるなど、なかなかの賑わいでした。在学生の活躍の場が広がっています。同年3月に行われた第4回ビジネスプランコンテスト（中村先生が実行委員長です）は、在学生はもちろん、卒業後10年までの卒業生まで参加者を拡大して実施。社会メディア学科2年生の遠藤貴也さんがファイナリストに選出されました。遠藤さんは、発表したプラン概要「居場所支援団体の必要としているものと企業が提供できるものをマッチングさせるサービス」を掲げて起業し、このたび社長に就任しました。教員も負けてはいられません。矢吹先生は、宗教心理学の翻訳本「なぜ子どもは神を信じるのか?: 人間の宗教性の心理学的研究」を、広田先生は、「心理学が描くリスクの世界 Advanced 行動的意思決定の展開」をそれぞれ出版されています。ぜひお手にとってご覧ください。加えて、文理融合学部にらしく、情報システム学科と連携した研究も盛んです。小池研究室と小倉研究室は人工衛星の研究、岡部研究室と大谷研究室はAIの研究と、時代の先端をゆく研究に取り組んでいます。

学生も教員も皆元気に活躍中です。ぜひ皆様もお時間の都合が付きましたら、母校に足をお運びいただければと思います。



「なぜ子どもは神を信じるのか?」を出版された矢吹先生



オープンキャンパスで研究室展示を行う社会メディア学科の学生たち

■情報システム学科

主任教授 増田 聡

情報システム学科では、情報システムをプロデュースできる人材を育成するため、様々な活動を行っています。2023年4月の新入生の交流を図る「フレッシュヤーズキャンプ」では、4年ぶりに外部での対面開催となり、横浜港クルーズを行いました。社会メディア学科と合同で、全体で約200名の参加です。2023年7月には初めての開催となる、文系・理系の枠を超える学際領域5学科の説明会「オープンファカルティ」を行いました。この中で、情報システム学科卒業を含む卒業生3名による講演として、社会に出てから役に立った在学中の経験などの話がありました。2023年8月のオープンキャンパスでは、猛暑や突然の雨にもかかわらず、多くの方が横浜キャンパスにも来場されました。情報システム学科の研究室展示では、その場で来場者に似た声を作るソフトウェアのデモンストレーションなどを行い、多くの来場者に関心を持っていただきました。また、横浜キャンパスの学園祭である「横浜祭」は2023年から9月開催となりました。4年ぶりに飲食など取り扱う模擬店も復活し、情報システム学科からはかき氷を販売する模擬店の参加がありました。これらのように、情報システム学科では、学生に多くの機会を設け、より良い人材の育成を目指しています。校友会の皆さまには、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



フレッシュヤーズキャンプ



オープンファカルティにおける卒業生3名による講演



研究室展示（オープンキャンパス）



模擬店（横浜祭）

■総合研究所

所長 野中 謙一郎

東京都市大学総合研究所は、平成16年4月に武蔵工業大学総合研究所として等々力キャンパスに設置され、以来、本学の特色ある先端的研究を推進すると共に、大学院生、学部生に対し、先端的教育環境を提供して参りました。2022年度末で、等々力キャンパスの建屋から世田谷キャンパスの6号館3階に本拠地を移転しました。2023年度の研究組織は、計10の研究センター・研究ユニットを中心に、未来都市、ナノエレ、インフラ、水素エンジン、緑地創生、地盤、子ども・福祉、ロボット、災害制御、太陽電池、マイクロシステム、宇宙科学、ウェルビーイングなど幅広い分野で研究を進め、外部資金を獲得しながら研究を推進するとともに、総研セミナーによる研究紹介や成果報告を行っています。2023年8月のオープンキャンパスでは総研オープンラボを開催し、参加した高校生や保護者に総研の研究紹介やデモを行いました。第211回総研セミナーは、JSTの次世代研究者挑戦的研究プログラム選抜学生が企画した研究発表会で、研究発表・ポスターセッションなどで交流を深めました。今後も大学全体の研究をリードしながら、幅広い活動を展開して参ります。



世田谷キャンパス6号館（左）と次世代研究者挑戦的研究プログラム選抜学生（右）

■ナノ科学技術学際研究センター

センター長 野平 博司

2023年5月にコロナがインフルエンザと同じ5類に変更されたように、2020年から始まったコロナ渦もだいたい落ち着いてきたことと存じます。ナノ科学技術学際研究センターにおいても、感染対策を行い、また“3密”を避けるということに留意して活動を行っています。4月から10月までの利用件数も、2022年度439件から、2021年度1153件（コロナ対応：東海大含めた外部の丸投げ分析で対応開始）、2022年度999件、2023年度1064件と今年は、写真のようにほぼ例年通りの利用に戻りました。また、対面で開催されたオープンキャンパス（8月6・7日）での見学会や高校の見学会（6月13日川崎総合科学高等学校2・3年生13名、7月31日浦和実業学園高等学校2年生20名）などが行われました。さらに、10月24日にはエディスコワソウ大学の先生方が見学されました。12月以降には、東海大学との連携による機器利用説明会や分析技術講習会をオンサイト/オンラインのハイブリッド形式での開催を予定しております。来年度は状況次第ではありますが、本学の研究活動を支援するために、機器分析セミナーの共同開催やSCAN TECH 2024の本学現地での開催などを予定しています。



実験風景

■ 共通教育部

● 人文・社会科学系

主任教授 井上 健

本学系は人文・社会科学教育・体育教育・教職教育の3部門から構成されています。

◎ 人文・社会科学教育部門

教授 山本 史華

人社部門には6名の教員が所属しています。2023年度から始まった留学生向けプログラム「日研生コース」の一科目として開講された日本文化論を岡

山理香教授が担当されています。また、共通教育部長や図書館長などを務めてきた新保良明教授が本年度末をもって定年退職となります。新保教授は話術にとっても長けており、どの講義も学生には大変人気



新保良明教授

があります。高校までは歴史に関心がなかった学生が、新保教授の講義を通して歴史を学ぶおもしろさを理解していく姿を見ると、同僚としても学ぶべき点がある、と実感しております。

◎ 体育教育部門

教授 久保 哲也

昨年度末をもって、41年にわたり本学体育の教育・研究に多大な貢献をされた渡辺一郎教授が定年退職されました。先生は、スポーツ科学(特にラグビーや各種スポーツの安全推進等)の分野で顕著な業績を残し、多くの人材を育てられました。また、学生部長等の要職を歴任し、学生がより良いキャンパスライフを過ごせるよう尽力されました。



渡辺一郎教授(前列)と現在のスタッフ

渡辺先生の教育に対する熱い思いを受け継ぎ、今後も学生の心身共に健全な発育・発達に貢献できるように、部門一丸となって更なる努力を続けていく所存です。

◎ 教職教育部門

教授 井上 健

本年度をもって、殿村洋文先生(教育講師)が任期満了で退職されます。殿村先生は、2019年4月に着任以来、豊かな経験と知識を活かして、本学の教職教育・学生指導にご尽力をいただきました。豊かな教材研究に裏打ちされた授業とユーモアあふれる丁寧な指導は学生みなさんが口にするとところ。とりわけ教員志望者を「採用試験対策ゼミ」で鍛えていただき、この春も6名が教壇に立ちます。殿村先生、ありがとうございました。



殿村洋文教育講師

● 自然科学系

主任教授 田邊 頭一朗

共通教育部自然科学系は、数学教育部門と情報教育部門から構成されており、2023年度は8名の専任教職員、57名の非常勤講師という体制で、主に理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部の工学系基礎科目の教育と研究を担当しています。また、物理学教育部門と化学・生物・地学教育部門については自然科学科の教員が担当しており、数学教育部門については自然科学科の教員と連携して教育を行っています。これま

でと同様に、大学院総合理工学研究科の共通教育も担当しています。コロナ禍でのオンライン授業で開発した新しい指導方法や教材などを活用し、高いレベルの授業を提供できるよう非常勤講師の先生方も含め全員で努力しています。

◎ 自然科学系/数学教育部門

田邊教授、井上准教授、古田准教授、出未准教授、河合教育講師の5名体制となっています。自然科学科の橋本教授、中井准教授、服部准教授と連携して教育研究活動を行っています。また、2022年9月に、出未准教授が著者の一人である『[詳解] 複素解析学』(日本評論社)が出版されました。



〔詳解〕複素解析学(出未, 澤野, 野舟) 日本評論社

◎ 山口教授、安井講師、千葉教育講師の3名体制で、主に理工学部・建築都市デザイン学部の情報基礎教育を行っています。また、情報基盤センターの整備・運営にもセンター職員と協力して参画しています。

● 外国語共通教育センター

部門長 植野 貴志子

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法における5類に移行し、本学にもようやくコロナ禍前の平常に戻ってきました。外国語の授業では、グループワークやプレゼンテーションなど、参加者間のコミュニケーションに基づく活動が重視されますので、安心して対面でことばを交わすことができる環境がいかにも有難いものであるかを実感しています。

外国語共通教育センターでは、全学統一カリキュラム「都市大スタンダード2.0」に基づき、英語の運用能力を養うとともに、国際社会で求められる幅広い教養や英語以外の外国語を学ぶための多様な科目を展開しています。

1年次対象の外国語必修科目(英語)では、自律的な学習を促し英語基礎力を増強することを目的として導入したe-learningが3年目を迎えました。試行錯誤を繰り返しながら取り組みが定着してきました。e-learningを習慣化することで、入学からの1年間でTOEICスコアが大幅にアップしたという声も多く聞かれるようになりました。2年次以上の外国語選択科目では、多彩な英語科目に加えて、韓・中・独・仏・西・伊・アラビア語を含む外国語から、各々が自分にとって必要な科目を自由に選ぶことができます。英語科目については、文法の見直しを行う授業やTOEICの対応力を高める授業の履修希望が多く、英語以外の外国語については、アジアの言語(韓・中)への関心が高い傾向にあるようです。

本学での外国語授業が、学生の皆さんの将来のキャリア形成に役立つよう、外国語共通教育センターの教育体制を強化し、効果的な授業を提供していけるよう努めて参ります。



1年次必修科目Communication Skillsの授業の一コマ

学科同窓会だより

■機親会

会長 大谷 眞一 (1976機械)

機親会総会を2023年11月25日、世田谷キャンパス3号館で開催しました。出席は、オンライン出席を含め29名でした。

基調講演は機親会理事の機械システム工学科、熊谷正芳教授より2019年3月から1年間英国マンチェスター大学へ留学された際の経験を紹介された。同地は産業革命の地で、今でも北部イングランドの中心地で、周囲の都市へのアクセスも良く、散策を楽しめ、各地のビールも堪能されたようでした。また、百聞は一見に如かずと言われるように、体験することは重要であるが、それらは事実の一側面にすぎず、それらを考察し真実(真理)を見出すことが大切であると話を締めくくられた。

総会后、新10号館(機械工学科、機械システム工学科の研究室が入っている)の見学会を行ない、機械システム工学科強度設計システム研究室の中にも入りました。

懇親会は、学生食堂で開催しました。望月宏副会長の乾杯の挨拶の後、機親会のタスキをかけて出席者が自己紹介を行ない、山田弘道副会長の中締めでお開きになりました。



新10号館見学会(強度設計システム研究室)



懇親会(学生食堂)

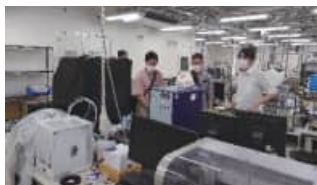
■電友会

会長 石田 彌 (1970電気)

2023年度は国の新型コロナウイルス感染予防対策が5月より軽減化されましたが、十分な活動には至りませんでした。

今年度は大きな出来事が二件ありました。

一件目は新10号館が稼働したことです。5月の電友会幹事会開催に合わせて同館の見学会を実施しました。教室は開放的で学生間の情報共有や他の研究へ関心を寄せ、互いの研究が活性化される期待を感じました。



二件目は2023年3月に電気電子通信工学科の第一期生が卒業したことです。新規名称での学科同窓会の発足が進まず残念ですが、一日も早い発足を期待します。

今年度の卒業生表彰は以下の方々(敬称略)です。学部に関しては電気電子通信工学部の卒業生の為、電友会と通友会の合同表彰としました。

・電友会長賞(大学院)

修士課程;一瀬謙, 桐原芳治, 南澤知正, 布施航

博士後期課程;任振威, 根本雄介, 袁振東, 我妻勇哉

・電友・通友会賞(学部)

石原のぞみ, 大岩昂史, 太田佳暢, 片桐諒介, 琴浦将貴

須田祐太朗, 竹中健斗, 筒井孝政, 松森大輝, 宮木耀平

■緑土会

副会長 黒沼 良彰 (1978土木)

令和5年11月11日(土)市ヶ谷にありますアルカディア市ヶ谷で緑土会総会と懇親会が行われました。

今回の総会は、コロナ明け初、久しぶりにホテルにて開催されました。総会終了後の懇親会は、少しにぎやかにとの意見に、緑土会として過去に例のない、シャンソンライブを計画しました。



シャンソン歌手 林 美喜様



懇親会会場にて、松下元緑土会会長高橋次期会長も聞き惚れていました

事前の度重なる幹事会等で歌を歌われたら会話ができない等反対意見が出ていましたが、あるOBから次世代への良い継承になればとの意見にこの企画を実施することが出来ました。一時間程度のシャンソンライブで、会場では歌を歌っている間ほとんど喋りっぱなしの方もおられましたが、歌手の熱唱、ピアノ・シンセサイザーの演奏に60名程の参加者(学生20名含)のほとんどが最後にアンコールと絶大なる拍手で大成功にて終了しました。



松浦会長と学生による校歌斉唱



全体集合写真

■如学会

会長 小林 秀憲 (1982建築)

如学会は2023年度、様々な活動を実施してまいりました。如学会の各事業の担当された方は大変だったと思います。

如学会は、学生支援事業として「進路ガイダンス」と「進路ガイダンス準備会」を10月と8月に実施しました。それぞれ学生の就職活動をサポートしていくものですが、建築学科教室の先生方や大学のキャリアセンターのご協力を得て実施しています。昨今の企業側の新卒学生採用気運の高まりと大学でのキャリア形成教育の進展により、如学会の活動がより有効になっていると考えます。

11月の大学祭に合わせて4号館で例年開催している建築展を今年も開催しました。今までは、「建築100人展」として卒業生の自由応募作品を展示してまいりました。今年度は8名の卒業生に出展を依頼しました。合わせて故岩崎堅一先生のスケッチや図面の展示も「岩崎堅一を偲ぶ会」をお願いしました。学生と共同しブックカフェも実施いたしました。学生が椅子や机。本棚を作成し、卒業生より提供された書籍を並べました。最後には、その書籍を学生に配布いたしました。ブックカフェについては、大学祭以外にも自由が丘の校友会館においても実施しています。2024年度の建築展について更なる挑戦をしていきたいと考えています。

会報誌として「如学会NEWS」を年1回発行しています。新たに着任された先生の紹介や卒業生の対談や紹介、また竣工建物の紹介など建築学科の近況を卒業生に伝えています。

如学会として建築学科の先生方や学生との情報共有・連携・協力は如学会活動に必須なことであると考えます。そのため、4半期ごとに連絡会をそれぞれ開催させていただいています。

今後も卒業生及び大学・学生への有意義な活動を続けていきたいと思えます。



建築展



進路ガイダンス

■通友会

会長 藤川 進 (1972通信)

●2022年度の活動報告

コロナ禍などの影響があり予定していた通友会としての活動はほとんどできませんでしたが、

- ・2019年の学科改編で通友会と電友会の会員が属する学科が「電気電子通信工学科」に統合されて初めての卒業生が2023年3月に生まれました。そこで、通友会と電友会が各々贈呈していました賞を「電友・通友会賞」を卒業式で授与しました。
- ・2023年3月に「Flex45号」を発行しました。
- ・2022年度中の講演会開催を目論み準備を進めていましたが諸般の事情により叶わず、ようやく2023年4月に通友会と電友会との共同主催で、講演会「電気自動車（EV）一動く蓄電池—で目指す持続可能な社会の実現」を世田谷キャンパスで開催しました。これは「校友会10周年のティアアップ企画」として行いました。

●2023・2024年度の活動予定

2022年度からの活動懸案事項である新卒業生の同窓会（仮称電気電子通信会）と電友会と通友会の3者で、将来の統合を視野に入れた打合せを進める一方、電友会と共に電気電子通信会を補佐しながら共同企画の活動を行います。

また、校友会10周年ですので、この記念年に相応した行事も実施できればと考えています。

2023年度及び2024年度は、通友会の新たな将来の形を見据えながらの活動になると思いますが、会員皆様のご支援をいただきながら進めていきたいと思っています。

■経友会

会長 海老沼 利光 (1974経営)

(1) 対面会議とリモート会議を併用しました

経友会役員会及び三役会議は対面とリモート会議を併用して毎月開催しました。

2023年度の経友会総会は、2024年2月24日に開催しました。事業計画、学生支援策、予算などの企画・立案の上審議しました。総会終了後には、森主任教授による講演会を行い、総会と講演会の終了後、神奈川・湘南支部との「合同懇親会」を行いました。

(2) 若手OBがタテに繋がる「エビ長会」をやっています

経友会の若手OBがタテに繋がる「エビ長会」が発足して4年目を迎えました。メンバーは、経工会（知湊会）の会長歴任者、知湊会長（現3年生）と経友会会長、副会長、幹事長です。「先輩～後



エビ長会リモート会議

輩～学生」のタテの繋がりを重視した13名のグループです。（注：経工会は、2021年4月の学科名称変更に伴って、知湊会に改名しました。）「エビ長会」は定期的なミーティングを行い、学生支援や情報交換と共有を図っています。

(3) 学生を支援する「エビ会」が8年目に突入しました！

知湊会（旧経工会）の学生の皆さんと「自主研究会：エビ会」を2016年に開始し、2024年は8年目を迎えました。2023年からは、新たに横浜キャンパスのデータサイエンス学科の学生も加わりました。主な取り組みは、次の通りです。

- ①「研究室の研究分野やゼミの取り組み内容」を先輩から聞く
- ②社会人としてのマナーを習得する
- ③企業のCSR活動を学ぶ
- ④先輩の就活体験談を教えてもらい、自分の就活に生かす
- ⑤「ものづくりの原点」や「システムとは」を勉強する
- ⑥各企業の様々なランキングを調査し、「企業実態」を知るゼミ形式で取り組んでいます。

■医工会

会長 小林 匠 (2011生体医)

【2023年度報告】

医工会では感染症蔓延対策の一環として三密（密接・密集・密閉）の回避や飛沫感染の予防対策を図りながら、休止していたイベント等を段階的に再開しています。あらためまして本会のみならずにおかれましては、今後の活動を実施するにあたって感染拡大防止に配慮した取り組みをお願いいたします。

特に2023年度は2022年度末に開催された総会に基づき、会長、副会長以下役員を刷新しての活動活性化に取り組んでおります。このような状況下ではございますが、医工会活動再開の一環として数回にわたりオンライン形式での打合せを実施いたしました。会長、副会長をはじめ医工会の会員による活動再開ならびに本会活動の在り方についての協議がなされました。

これに基づき例年継続して参りました対面形式でのファミリーイベントの再開や、オンライン形式を活用した医工工学科の卒業生とその家族を対象にした情報交換会を実施いたしました。オンライン打合せのノウハウを活かして当日は10名弱の参加者が集まりました。今回の企画は好評を得られましたので引き続き新生活様式に則したイベントの開催を予定しております。

【2024年度予定】

開催時期等は未定ですが医工会活動のさらなる活性化に向けての総会開催を予定しております。2024年初頭に上記のための準備会を企画しております。さらに、同会有志による在校生への就職活動支援や、在校生の学習・同校の教育活動への支援などを含む活動の検討を行ってまいります。

■原子力友の会

羽倉 尚人 (2005エネルギー基礎)

年に2回のイベントを開催！春の交流イベントも復活

2023年4月1日(土)に王禅寺キャンパス（原子力研究所）にて恒例の花見会を開催した。50名ほどの参加があり大いに盛り上がった。卒業生同士、卒業生と学生・教職員の対面でのこうした懇親はやはりいいものだ実感する機会となった。2024年以降も4月の第一土曜日に開催していく計画である。また、11月4日(土)には世田谷祭に合わせて第12回となる総会・講演会を開催した。今回も2022年と同様に対面と、Zoomミーティングルームの併用によるハイブリッド形式とした。オンライン参加を可能とすることで少しでも多くの方に参加いただければと考えており、今後もこのスタイルを継続していく予定である。総会では、本会設立当初より4期12年の長きに亘って会長職を担っていただいた本多庸郎氏の退任が発表され、学科および友の会から感謝状と花束・記念品の贈呈が行われた。新会長には川久保政洋氏が就任した。新たな体制となり引き続き卒業生同士に加えて、学生・教職員との懸け橋としての役割を果たしていけるようにしたい。講演会は、在学生・和佐陽斗氏による閃源会活動の報告と今後の計画、卒業生・泉正憲氏によるこれまで経験してきた業務と学生へのメッセージ、そして教員からは大鳥靖樹先生による原子力発電所の耐震多様性に関する研究の紹介という3本立てで実施した。

(<https://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/tomo/index.html>)



第12回総会・講演会（現地参加者）



王禅寺での春のイベント

学科同窓会だより

■さきがけ

会長 依田 未紗稀 (2017自然科学)

2023年に新型コロナウイルスが5類に分類され、活動の制限が減ってきました。さきがけは10周年となり、2022年より新体制での活動を行っています。卒業生同士の交流を深めるため、高橋弘幸さん(2020)を筆頭に、2024年に第3回ホームカミングデーの開催を予定しています。詳細はホームページに記載する予定です。

そのほか、2023年の事業は以下の通りです。

- ① 2022年度さきがけ賞授与(6名)
- ②フレッシュャーズキャンプTA費用支援
- ③ 2023年さきがけ総会開催
- ④会報「さきがけ」14号発行
- ⑤学生との交流会

さきがけ賞受賞者は、木村駿介さん、高嶋佳さん、富山琢史さん、成田亜美さん、保坂真帆さん、宮尾美月さんです。おめでとうございます。

学生との交流会では、自然科学科学学生会の支援、そして在學生と卒業生の交流を目的として行いました。現在、自然科学科学学生会は、様々な活動の復活を目指しています。卒業生として、コロナ禍で受け継がれなくなってしまった伝統を引き継ぎつつ、新しい学生会の活動を支えていきたいと思っています。

さきがけにおいては、新規スタッフの募集をしております。ご協力をいただける方は、sakigake_tcu@yahoo.co.jpまでご連絡をお願いいたします。



■楷の木会

清田 華代 (2005環境情報)

2023年9月17日(土)横浜祭初日Homecoming Day 2023-第17回同窓生の集いを実施しました。4年ぶりの対面開催で多くの同窓生や関係者の方々にお集まりいただきました。

3名の卒業生に講演いただき、磯川さん(06年度環境卒/小堀研)は主夫をしながら食育や自然体験活動されていること、郷さん(06年度環境卒/伊坪研)は子育てしながらも遅くご自身のキャリアを構築されていること、枝迫さん(20年度環境創生卒/北村研)は卒業して2年目のまだ悩んでいる最中の様々な背景の卒業生のリアルトークを聞くことができました。同じキャンパスの卒業生の中で本当に広い分野での繋がりがあることが再認識でき、とても嬉しくもあり刺激的でした。

また、佐藤真久先生の特別講義の中で、持続可能な社会のために、卒業生3名のようにそれぞれの自分の好きなものを選択していくことが重要だとお話してください、「持続可能な社会」がより自分事に聞こえてきました。

ホームカミングデーで同窓生や学校との繋がりを思い出せる貴重な機会になりました。



左から: 佐藤真久教授、磯川さん、郷さん、枝迫さん

■新美砂会

副会長 川辺 加代子 (1975国文)

【追悼】

本会会長小林菊恵氏がかねてより病氣療養中のところ、昨年7月15日にご逝去(享年85歳)されました。

小林会長は東横学園女子短期大学卒業第一回生として、昭和33年5月の「みさご会(後に美砂会と改称)」発足より長きにわたり同窓会と母校の発展に尽力して来られました。殊に昭和42年に就任された第二代英修道学長より、私学における同窓会の果たすべき役割はかくある



べきとのご指導と絶大なるご支援を受け、全国14の地方支部発足並びに整備、全国規模での在學生の父兄会と合同で地方支部会開催、学内での売店・コーヒーコーナー経営と教科書販売、本会所有の軽井沢「山の家」の運営等々、多岐にわたり活動の場を拡げられました。また、美砂会奨学金の設置、学生食堂の運営など、在學生の支援にも尽力されました。この活動の規模と内容は女子のみの短期大学同窓会としては比類なきものであったと言えるでしょう。

設立10周年を迎えた「東京都市大学校友会」発足の際にも尽力され、校友会副会長として活躍されました。

ここに小林会長のご功績を偲ぶとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

【新美砂会本部活動解消のお知らせ】

さて、本会の常任幹事による新美砂会本部としての活動は本年3月末をもって解消させていただくことになりました。

背景としては、固定化している現メンバーが高齢となり、それぞれを取り巻く環境変化のため、組織としての活動継続が困難となりました。2022年4月に等々力キャンパスの世田谷キャンパスに統合に伴い新美砂会事務局が閉鎖して以降は、窓口は校友会事務局に一本化されておりますが、支障がないこともわかり決断するにいたしました。引き続きお問い合わせ等は校友会事務局をお願いいたします。

本部は解消しても旧東横学園女子短期大学の卒業生がいる限り「新美砂会」は存続しますので、今後は一会員として皆様と共に校友会諸行事や支部総会等々に参加していくこととなります。

長年にわたり新美砂会活動にご理解ご協力いただきました皆様には心より御礼申し上げます。

RINGプロジェクト

リーダー 加藤 広樹 (2013自然科学)

東京都市大学校友会は都市大コミュニティ活性化のため、様々なメディアを通じて、各種イベント・プログラムを行い緊密なネットワーク形成を図っております。一方で、若手会員が校友会役員になることや校友会活動そのものへの興味・関心が薄れており、近年における若手会員の校友会活動への参加状況については、以前より活発ではなくなっていると感じております。そこでRINGプロジェクトは若手卒業生の校友会活動への参加を促すため、マーケティング戦略を通じて、より若手が参加しやすいイベントや取り組みを実施しています。

2023年のRINGプロジェクトの活動は、2013年以降に都市大を卒業した方を対象に秋の山梨で大人気のマスカットを楽しむ「シャインマスカット狩りバスツアー」を実施しました。このツアーには非常に多くの参加エントリーがあり、残念ながら希望者全員を招待することはできなかったものの、卒業間もない友人同士やご夫婦、お子様を連れのご家族を含め総勢44名で実施することができました。マスカット狩りのほか、ワイナリー見学、ハーブ庭園、信玄餅詰め放題も体験でき、季節を楽しみながら若手の会員同士が交流できる機会を作ることができました。引き続きRINGプロジェクトでは若い方々を対象としたイベントの企画運営を計画しておりますので、お気軽にご参加ください。また新しいイベントの企画や運営に挑戦したい方におかれましてはRINGプロジェクトメンバーの募集も行っております。校友会事務局までお問い合わせください。



2023年度 就職動向と支援

学生支援部部长 住田 暁弘

就職環境

■ **2023年3月卒業・修了生の就職状況**：新型コロナの影響も落ち着いてきた印象となった23年3月卒の就職状況ですが、就職（内定）率は全国平均97.3%（文部科学省：前年比1.5pt増）と高い数値となり、本学においても97.7%と堅調な実績を残すことができました。コロナの影響で採用見合わせや採用縮小となっていた業界・企業なども求人再開、採用数増に方針転換し、大卒求人倍率も前年度の1.50倍から1.58倍と回復傾向にあります。採用選考では多くの企業がZoomなどのオンラインツールを活用しており、企業説明会や面接はオンライン・対面を就活生が選べるような形式をとる企業が増えました。しかし、オンラインを併用しながらも最終面接については対面で実施する企業も多く、オンラインの情報だけでは得られない対面の重要性も改めて見直されたように見受けられます。採用手法の多様化は進んだものの、求人倍率、就職率の面からはコロナの影響からほぼ脱した年であったと言えます。

■ **2024年3月卒業・修了生の就職環境**：2024年3月卒（現4年・M2）の就職活動では、3年生・M1生の夏や秋冬に実施したインターンシップ、1DAY仕事体験等の参加学生に対して、早期選考につなげる動きが加速し、学業に悪影響を与えかねない「就活の早期化」が問題視されるようになりました。一方で職務を限定した専門職を採用する「ジョブ型採用」を採り入れる企業も徐々に増えつつあり、採用の多様化も進む傾向にあります。また、新卒初任給を引き上げる動きなども多くみられるようになりましたが、俗に「オワハラ」と言われる、企業からの「就活終われハラスメント」なども散見され、人材獲得のために企業側が苦慮している印象もあり、学生有利の売り手市場であると言えます。とはいえ、学生は早いうちからインターンシップの早期選考への対応、希望業界や企業を早期から絞り込まなければならないなど、戸惑いながらの就活を強いられるケースも見受けられました。

24卒を対象とした文部科学省発表の2023年12月時点での国公立大学の平均内定率は「84.4%」となりました。本学においては12月時点で学部生は88.0%、大学院生では89.4%の内定率と高い数値にはなっておりますが、本学としましては、まだ活動を継続している学生に対しての支援は最優先と認識しております。これからも学内での企業セミナーや継続して採用している企業の情報を収集し一層の就職活動の支援を実施してまいります。

■ **2025年3月卒業・修了生の就職環境**：2025年3月卒（現3年・M1）の採用選考時期も今年度と同様となりますが、採用選考の多様化や国内外の経済、政治の変動による環境の変化の可能性は高まっています。さらには25卒の学生より、本来の就業体験と認められる一定の要件を満たしたインターンシッププログラムに参加した学生については、その情報を受入れた企業は3月以降の採用選考の評価に活用することが可能となりました。学生が変化に戸惑い、不利

益を被らないように本学としても十分に対策をしていきます。また、今年度より限定された大学の在學生と卒業生をつなぐサービスツールである『ビズリーチキャンパス』を本学も利用できるようになりました。本サービスは、いわゆる「OBOG訪問」を登録された本学卒業生（所属企業から登録または卒業生自ら登録）に対してオンラインで行える仕組みとなっています。引き続きまして、校友会の皆様からも学生への直接的、また情報提供などの間接的なご支援も一層賜りますようお願いいたします。

近年の主な就職先

最近3か年の主な就職先を以下に示しました。より詳細な資料は大学ホームページ（HOME > 就職・キャリア > 就職実績 > 年度別主要就職先一覧）をご覧ください。

民間企業	3カ年合計	2023年3月卒	2022年3月卒	2021年3月卒
東京電力ホールディングス	37	13	14	10
日本電気 (NEC)	36	11	11	14
富士電機	32	10	7	15
大成建設	31	8	14	9
凸版印刷	30	11	13	6
SUBARU	26	10	7	9
いすゞ自動車	26	8	8	10
清水建設	22	8	7	7
日立製作所	20	6	5	9
NECソリューションイノベータ	19	4	9	6
三菱電機	18	10	6	2
スズキ	17	8	5	4
本田技研工業 (Honda)	17	2	8	7
東急建設	17	7	5	5
富士通	16	6	5	5
富士ソフト	16	6	5	5
世紀東急工業	16	4	5	7
日立社会情報サービス	16	3	7	6
鹿島建設	15	6	4	5
東海旅客鉄道 (JR東海)	14	2	5	7
キヤノン	13	6	2	5
ミネベアミツミ	13	6	3	4
五洋建設	13	4	5	4
熊谷組	13	4	5	4
NSD	13	4	5	4

公務員	3カ年合計	2023年3月卒	2022年3月卒	2021年3月卒
横浜市役所	26	11	8	7
神奈川県庁	17	6	4	7
東京都庁	14	6	3	5
渋谷区役所	10	1	4	5
世田谷区役所	10	4	3	3

「2023年度定期総会」及び「校友会10周年記念講演会」を開催



2023年度の定期総会は、ハイブリッド方式（対面及びリモート ZOOM）にて5月18日（土）13時より世田谷キャンパス71 A教室で開催致しました。

＊2022年度事業報告、2022年度収支決算、2023年事業計画、2023年度収支予算等は、校友会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

総会後に校友会10周年記念講演会として、「星のかけらを採りにゆく：はやぶさ2の技術とマネジメント」のテーマにより、JAXA 宇宙飛行工学研究系教授・はやぶさ2プロジェクトマネージャー 津田雄一氏に興味深いお話をいただきました。



また、講演会後には、コロナ禍で中止していた懇親会を4年振りに行い、旧交を温めました。

校友会活動充実のための維持会費納入のお願い

校友会では、今後の活動を維持し、更に充実したものとしていくため、維持会費の納入をお願い致します。なお、2023年2月1日～2024年1月31日までに維持会を納入いただきました方のご芳名一覧を校友会報「都市」本号（第11号2024年3月発行）の発送時に同封しております。

＜維持会費金額＞ 1口2,000円（1口以上何口でも結構です。） ※税制上の控除はございません。

＜納入期間＞ いつでも受け付けます。

＜納入方法＞ ①ゆうちょ銀行窓口・同銀行内ATMにて通帳・カードで振込……振込手数料は、無料です。

なお、現金での払込取扱票による振込みの場合、振込み手数料はご負担ください。

②各銀行窓口・ATM・ネットバンキングより以下の口座に振込……振込手数料は、ご負担ください。

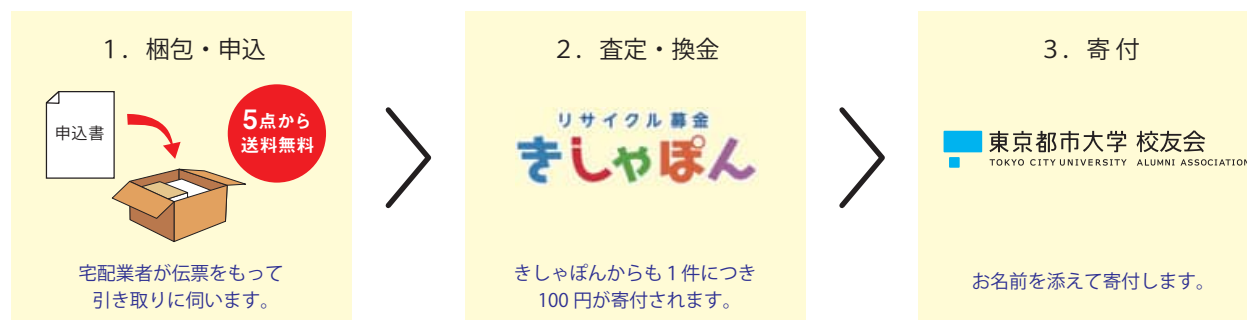
〔振込み先〕ゆうちょ銀行 店名：〇一九（ゼロイチキューウ）

預金種目：当座 口座番号：0451231 口座名称：東京都市大学校友会

【お問い合わせ先】 東京都市大学 校友会 事務局 TEL：03-3703-3862 mail：koyukai-jimu@tcu.ac.jp

東京都市大学校友会リサイクル募金のお願い

皆様から読み終えた本、DVD等をご提供いただき、その査定金額が東京都市大学校友会に寄付される取り込みです。寄付金は、在学生支援事業に役立てられます。ご協力よろしくお願い致します。梱包前にできるものとできないものをご確認下さい。



■ WEBでのお申し込み（24時間） 東京都市大学校友会リサイクル募金 kishapon.com/tcu-alumni/

■ 電話でのお申し込み（9:00～18:00） ☎0120-29-7000 オペレーターに「208」とお伝えください。

（運営協賛）リサイクル募金きしゃぽん／嵯峨野株式会社

表紙解説

勝又 英明 (1980建築)

今回の表紙写真は2022年度に供用を開始した新10号館1期部分の南北に貫く吹抜けです。撮影は2024年1月27日17時頃です。吹抜けには屋根がなく外部空間となっています。各階の吹抜けに面した部分は外部廊下となっており、この廊下に面して実験室・研究室となっています。

この吹抜け空間を利用してクレーンなどで実験装置の搬出入が出来るようになってきました。まさに「工学系の最重要教育・研究の拠点」として最適な仕様になっている最先端の建物です。

この10号館の吹抜け空間を見上げて最初に思ったことは、「迫力があってきれいだな」でした。これは「工場萌え」に繋がると思います。この空間は機能に特化したもので装飾がありません。設備機器やダクト、照明、手摺、廊下に至るまで、機能に特化した空間です。それが逆に機能美を生んでいると思います。

世田谷キャンパスの施設整備は2024年度竣工の10号館II期を残すのみとなっています。キャンパスは最先端の美しい景観を持つ建物群に建て替わりました。是非世田谷キャンパスにお越しいただき、活気ある空間を体験してください。

vol.11

編集後記

三川 健太 (2005 環境情報)

校友会会報「都市」11号をご覧いただきありがとうございました。

本号では、今年一月にご就任された野城学長による洞察に富んだご寄稿に加え、昨年発足したリカレント教育センターによる東京都市大学リカレントプログラムのご説明をいただきました。これらにより、世の中のニーズに応え、変化している大学の今をご認識いただければ幸いです。

また、設立10周年を迎えた校友会について、発足以降これまでに開催してきたイベントやその歴史についてご記載をいただくとともに、およそ1年間をかけて実施してきた10周年記念事業、ならびにタイアップ企画の内容をご寄稿いただきました。ご参加できなかった方々におかれましても、記事を通じて当日の活気を感じ取っていただければと思います。機会があれば今後の活動にもご参加いただければ幸いです。

COVID-19による影響も少しずつ和らぎ、多くの支部の総会やホームカミングデーなどの活動も、ようやく対面開催ができるようになって参りました。対面開催の様子や雰囲気も少しでも皆様へお届けできればと思い、総会を実施された各支部の方々からはお写真を頂戴し、掲載するものといたしました。卒業生の皆様におかれましては、是非これらの活動へご参加いただければと思います。

末筆となりましたが、ご執筆いただきました皆さま、編集にご尽力いただきました皆さまおよび事務局に感謝申し上げます。

会報編集部会

部会長：羽倉 尚人 (2005エネルギー基礎)

編集長：三川 健太 (2005環境情報)

委員：加藤 祐子 (1978国文)

委員：衣斐喜美子 (1980家政)

委員：勝又 英明 (1980建築)

委員：和多田雅哉 (1984電気)

委員：及川 昌訓 (2007環境エネルギー)

2024年3月19日発行

東京都市大学 校友会 都市 vol.11

発行人 松村 慶一

発行所 東京都市大学 校友会

〒158-8557

東京都世田谷区 玉堤1-28-1

東京都市大学1号館4階

Tel.03-3703-3862

Fax.03-3703-4595

E-mail koyukai@tcu.ac.jp

URL <http://www.tcu-alumni.jp>

制作 富士印刷株式会社

印刷 有限会社 ライト社

CONTENTS

2024 March Toshi vol.11

1-2 巻頭言

- 1 東京都市大学 校友会 会長 松村 慶一
- 2 東京都市大学 学長 野城 智也
東京都市大学 校友会 顧問

3 ホームカミングデー

4 生涯キャリアサポートプログラム

5 東京都市大学リカレントプログラム

6-7 活躍する卒業生

8-12 支部だより

12 職場支部だより

13-18 10周年記念特集

19-24 学科だより

25-27 学科同窓会だより

28 2023年度就職動向と支援

29 校友会からのご報告並びにお願い

30 表紙解説・編集後記

2024年度 校友会定期総会 ハイブリッド (対面およびリモート) の開催について

開催日：2024年5月18日(土)

会場：世田谷キャンパス

13:00～14:30 総会

2023年度収支決算報告、同事業報告

2024年度収支予算、同事業計画 その他

14:45～15:45 講演会

野城 智也 新学長のご講演

「大学が輝くために考えていること」

16:00～17:30 懇親会

*詳細については、校友会ホームページ、都市大校友
オンラインメールにてお知らせいたします。



校友会ホームページ



定期総会申込フォーム

ホームカミングデーの開催予定について

横浜キャンパス：2024年9月15日(日)

世田谷キャンパス：2024年11月2日(土)

*詳細については、校友会ホームページ、都市大校友
オンラインメールにてお知らせいたします。

「都市大校友オンライン」のご案内

東京都市大学と東京都市大学校友会では、
会員への情報提供に関わるサービス向上を

図るため、「都市大校友オンライン」

(<https://tcu-alumni.jp/new/tcu-online/>)

の運用を行っております。



- 「都市大校友オンライン」によるweb版会員名簿では、開
示されている情報の検索・閲覧ができます。
- web版会員名簿の会員情報開示の可否は会員自身で設定
できます。
- 「都市大校友オンライン」にログイン・登録された方には、
校友会イベント等のメール案内を行っております。

「都市大校友オンライン」に ログイン・登録をお願いします

「都市大校友オンライン」
は、校友会イベントのご
案内配信等様々な場面で
利用され、導入の成果を
上げています。

しかし、残念ながらログ
イン・登録された方は、
全会員の16%に留まっ
ています。より多くの方
に登録していただくこと
が「都市大校友オンライン」
の利用価値の向上に
繋がります。

引越し等による会員情報の変更

ログイン時に必要な
「会員ID」と「初期パスワード」

わからない

知っている

校友会ホームページ

都市大校友オンライン

ログインID、パスワード
の問い合わせ

ログインし、自身の
情報を確認・更新する

東京都市大学リカレントプログラムのご案内



東京都市大学では新たに社会人の方を対象とした
「東京都市大学リカレントプログラム」を2024年
1月から開講しています。文系・理系問わず、興
味関心があればどなたでも受講可能です。卒業生
の方につきましては受講修了者に対して、申請に
より校友会から1科目につき2万円の補助を予定し
ています。プログラムの概要はP.5をご覧ください。
なお、補助に関するお問い合わせは下記まで願
います。

東京都市大学 校友会 事務局

E-mail: koyukai@tcu.ac.jp



校友会館自由が丘クラブ

コロナで中断していた飲食の提供を再開しました



お弁当、ケータリングはお問い合わせください

対面+Zoomの会議、Wi-Fiが使用できます



光通信回線で高速で安定した通信環境です

東京都市大学校友会会員の憩いの空間 !!

会議室「柏」、「桐」と「サロン」は東京都市大学校友会会員
(卒業生、在校生、教職員)は**無料**でご利用いただけます。

↓ 会館 [facebook](#)



↓ 会館 [HomePage](#)



↓ ご利用予約

